

3 大津市の歴史文化

3-1 大津市の歴史

(1) 先史（新生代・旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代）

先史時代 文化元年（1804）に南庄村（伊香立南庄町）の古琵琶湖層群から「トウヨウ象」の化石が発見された。発見当時は「龍骨」と考えられ、龍骨出土地には「伏龍祠」が建立される。古琵琶湖層群は、かつて琵琶湖の湖底に堆積していたもので、その後も動物化石の発見が相次いだ。また、真野、南志賀、瀬田丘陵、田上山など数ヶ所から、サヌカイトやチャートを原料としたナイフ形石器や有茎尖頭器などが発見されており、旧石器時代から人の活動があったと考えられる。

縄文時代の貝塚 縄文時代になると石山貝塚や栗津湖底遺跡から、セタシジミからなる貝層や、イチイガシ、トチ、ヒシ属の堅果類からなる層と魚類（フナ、コイ、ギギ、ナマズ等）や脊椎動物（スッポン、イノシシ、ニホンジカ等）の骨が発見され、縄文時代の食生活を知るうえで貴重な資料となっている。滋賀里遺跡（見世一丁目付近）は、琵琶湖にせりだす扇状地に集落が営まれ、出土した土器を中心とする一群には「滋賀里式土器」の名称が与えられ、近畿地方の縄文晩期の標式とされた。



写 3-1 石山貝塚（石山寺三丁目）

弥生時代と銅鐸 南志賀の山麓一帯に広がる南滋賀遺跡では、弥生前期に始まる方形周溝墓と土坑墓が共存し、石包丁も見つかっているところから、コメづくりが行われていたことが想定される。弥生時代中期後半～末になると、軍事的役割を持った高地性集落が出現するが、近江地域のなかでも大津市域に集中している。弥生時代の歴史を伝える遺物に銅鐸がある。天智天皇7年（668）、崇福寺（滋賀里町）建立のために地ならしをしている際、銅鐸が発見されたという伝承や（『扶桑略記』）、石山寺建立の際に銅鐸が出土したという伝承が残されている（『石山寺縁起』巻一）。唯一現存している一老坊遺跡（石山寺四丁目他）出土の銅鐸と合わせると、大津市内では3個の銅鐸が出土したことになる。



写 3-2 一老坊遺跡出土の袈裟襷紋銅鐸（石山寺提供）

古墳の分布 錦織の皇子山1号墳は近江最古級の古墳のひとつであると考えられ、湖岸側からの眺望を意識してか、墳丘の東側のみに葺石が施されている。同時期に築造された壺笠山古墳（坂本本町）からは特殊器台形埴輪が採集されており、初期の古墳の様相を解明するうえで、貴重な資料となっている。

大津市域の前・中期古墳の分布をみると、和邇大塚山古墳（真野普門町・小野）、茶臼山古墳（秋葉台）をはじめ、西羅1号墳（衣川二丁目）、木の岡本塚古墳（木の岡町）、兜稻荷古墳（神出開町）などがあり、6世紀前半には大津市域最後の前方後円墳と考えられる国分大塚古墳（国分一丁目）が築造される。

また6世紀半ば頃からは、真野・堅田地域や坂本から錦織地域の丘陵部に10数基から100基を超える群集墳が形成される。特に坂本から錦織地域の古墳はドーム状の天井を構築して一枚の巨石で天井を

ふさぐ「持ち送り技法」を採用した横穴式石室で、ミニチュア炊飯具を副葬する特徴がある。これらの古墳は同地域に居住したとされる渡来系氏族との関係が早くから注目されてきた。渡来人の集落として代表的な遺跡に穴太遺跡があり、ここでは大壁^{おおかべ}建物や礎石建物、オンドル状遺構が発見されている。

(2) 古代（飛鳥時代・奈良時代・平安時代）

大津宮 推古 15、16 年（607、608）の 2 度、推古天皇は遣隋使として小野氏を出自とする小野妹子^{おののいもこ}を隋に遣わす。この時、隋に渡った留学生は最新の知識を学び、帰国後、大化改新に象徴される天智^{てんじ}天皇の政治に大きな影響を与えた。

天智天皇 6 年（667）、天智天皇は大津へ都を移す。大津宮には、内裏のほか、漏刻^{ろうこく}（水時計）や庠序^{しやうじよ}（学校）を設けていたことが想定され、最初の戸籍（庚午年籍）の編成など、のちの律令国家につながる政治改革が進められた。

大津宮周辺には、互いに類似する瓦を用いた穴太廃寺^{すうふくじ}、崇福寺、南滋賀町廃寺、園城寺前身寺院（園城寺遺跡）が建立され、大津宮の緊急時には応急的な防御施設となる性格を備えていた可能性も考えられている。しかし、天智天皇の死後、天武^{てんむ}元年（672）に天智天皇の弟である大海^{おほあま}皇子と息子である大友皇子^{おほとものおおじ}による壬申^{じんしん}の乱^{らん}が勃発し、大津宮の建物は火災で焼失したと『懷風藻』に記載される。

保良宮と近江国府 天平宝字 3 年（759）、淳仁^{じゆんにん}天皇の下、政権の中心にあった藤原仲麻呂^{ふじわらのなかまろ}（恵美押勝^{えみのおしかつ}）は、平城京の陪都（国都以外に別に設けた都）として、瀬田川西岸の石山寺周辺に保良宮の建設をはじめた。近江は仲麻呂も近江守に就任していたように、藤原氏との関係が深い国であった。しかし、その造営は円滑に進まず、淳仁天皇・藤原仲麻呂と孝謙^{こうけん}太上天皇（上皇）・道鏡^{どうきやう}の対立の中で、天平宝字 6 年には造営が中止された。

律令制の浸透に合わせて、各国には国府が置かれ、地方行政を担った。近江国府の中核であった国庁跡（大江三丁目他）では、昭和 38 年（1963）から国内で最初の発掘調査が開始され、大きな成果をあげた。国庁周辺には、近江国一宮である建部大社が鎮座し、惣山遺跡（大型倉庫群）、青江遺跡（国司館）、中路^{ちゅうろ}遺跡^{かんが}（官衙 又は倉庫）、堂ノ上遺跡（駅家）、瀬田廃寺（近江国分寺）など国府関連遺跡が分布しており、一大官衙群を形成していたと考えられる。

「古津^{こつ}」から「大津」へ 延暦 13 年（794）、平城京から長岡京を経て平安京に遷都されると、大津は都の東の玄関口として活気を取り戻していった。桓武^{かんむ}天皇は当時「古津」と呼ばれていたこの地に、「大津」という呼称を復活させる。北陸地方の物資は、越前から塩津^{しおつ}・海津^{かいづ}へ、若狭から勝野津^{かちのつ}へと陸路を運ばれ、そこから船に乗り換えて大津へと運ばれた。平安京の外港として、琵琶湖を船で運ばれてきた物資が集まる、文字通り「大津」として繁栄していくことになる。

東国からの陸上交通の要衝となったのが、瀬田川に架かる瀬田橋で、古代の「勢多橋」は現在の唐橋より約 80m 南に位置していることが明らかとなっている。そして、大津から逢坂を越えると平安京へと通じていた。平安遷都以前の逢坂は、北陸道が通る「小関越」であり、これに東海道・東山道が通る大関を合わせて「逢坂越」と呼ばれるようになった。弘仁元年（810）葉子^{くすこ}の変の時に「近江の関」として逢坂関が登場し、以後、伊勢の鈴鹿関、美濃の不破関とならんで、三関のひとつに数えられた。また、天安元年（857）には相坂（逢坂）・大石・龍花（龍華）の関を設置したとの記録が見られ、逢坂となら



写 3-3 大津宮復元模型（大津市歴史博物館蔵）

んで醍醐や宇治田原方面へ通じる大石（関津峠付近か）と、八瀬・大原から和邇へ通じる龍華に関が設けられていたことが知られる。

古代仏教の展開 6世紀中頃、わが国に仏教が伝わり、6世紀末に本格的に導入される。石山寺の建立は、その縁起を記す最も古い記録である『三宝絵詞』によれば、天平感宝元年（749）とされるが、伝承の域を出ない。しかし、藤原仲麻呂の下に進められた保良宮の造営にあたって、山間の小寺院であった石山寺は鎮護の寺として位置づけられ、天平宝字5年（761）から翌年にかけて行われた増改築を経て、石山寺は草創される。



写3-4 石山寺縁起 巻1第3段
(石山寺提供)

比叡山は奈良時代より「神山」と呼ばれ、『古事記』には日枝山に大山咋神が宿ると記されている。三津首氏出身の最澄は、延暦7年（788）比叡山山中に薬師如来を安置した小堂を建立する。後の延暦寺根本中堂のはじまりである。最澄は桓武天皇の厚い庇護をうけ、遣唐使に同行して唐に留学し、帰国後、年分度者（国費による例年の得度者）2名を認められて延暦寺を本拠とする天台宗が成立する。最澄の弟子で第3代座主の円仁は、修行地として横川を開創し、東塔・西塔・横川の三塔の寺院組織を整えた。日吉社（現、日吉大社）が延暦寺の一山鎮守の地主神、天台宗守護の護法神となったのも、円仁の時代である。

園城寺は、大津宮時代の遺構が確認されており、三井寺の俗称は天智・天武・持統三代の天皇の産湯を汲んだ井戸に由来するとも言われている。草創は、壬申の乱で敗れた大友皇子の子、与多王が父の遺言に従って建立したとも伝えられるが、現在に続く園城寺の基礎を築いたのは第5代天台座主円珍である。円珍は朝廷から園城寺の別当に任命され、衰退していた園城寺を天台別院として再興した。

延暦寺は円仁と円珍によって勢力を拡大したが、それぞれが門徒を形成し、山内を二分して対立するようになる。両者の分裂が決定的になったのは正暦4年（993）のことで、円珍門徒は園城寺に拠り、寺門と呼ばれた。一方、円仁門徒は山門と呼ばれて延暦寺を代表する勢力となり、以後両者の抗争は中世にまで続いていくことになる。

古代の文学 柿本人麻呂がいにしえの大津宮を偲んだ歌をはじめ、『万葉集』には「淡海の家」「比良山」「楽浪」「唐崎」「志賀津」「相坂」「大津」「田上山」など琵琶湖周辺の山や川などが歌われている。他に大津市域の代表的な歌枕としては、「鳩の海」「真野の入江」「滋賀の浦」「関山（逢坂山）」、「関寺」、「三井（寺）」、「打出浜」、「陪膳浜」、「粟津」、「石山（寺）」、「八島」、「桜谷」、「瀬田の橋」などがあげられる。六歌仙のうち、小野小町と大伴黒主は近江の豪族の系譜につらなり、小野氏からは、小野小町のほか小野篁・小野道風といった歌人や書家を輩出している。

王朝文学の世界において、石山寺の存在は大きい。観音霊驗地として平安時代の貴族女性は石山寺にたびたび参拝し、清少納言は『枕草子』で「寺は石山」と記した。また石山寺は、紫式部が石山寺に参籠して『源氏物語』の構想を練り、須磨、明石の巻を執筆したという伝承を持つ。今も、本堂には紫式部が『源氏物語』を執筆したと伝える「源氏の間」が残る。

(3) 中世（鎌倉時代・南北朝時代・室町時代）

源平の争乱 治承4年（1180）、以仁王は平家打倒の令旨を發して挙兵し、源頼政とともに源氏と関わりの深い園城寺に入った。しかし、平家方の攻撃を前に園城寺を出て奈良に逃れる途中、討ち死にする。平家打倒は失敗かと思われるが、反平家の動きが各地にひろがり、源義仲によって平家は都を追われ、西国に落ち延びる。ところが、後白河法皇と対立した義仲は、やがて源頼朝の名代として上洛した源義経・範頼と合戦におよび、乳母の子として従っていた今井兼平とともに栗津の地で戦死している。平家を滅ぼし鎌倉に幕府を開いた頼朝は、源氏と園城寺のつながりから、園城寺の復興に尽力し、石山寺にも大きな庇護を与える。国宝の石山寺多宝塔は建久5年（1194）の墨書銘があり、頼朝の寄進と伝えられている。



写 3-5 石山寺多宝塔

日本仏教の母山・延暦寺と諸宗の競立 9歳で比叡山に登り修行を続けていた源信は、横川に隠棲して、末法思想の流布によって広まった浄土信仰の普及に専念した。源信は、寛和元年（985）に、『往生要集』3巻を著して、浄土教の理論的基礎を築く。

源信によって確立された浄土教は良忍によって延暦寺における信仰の大きな柱となったが、庶民仏教として大成するのは法然・親鸞の時代になる。法然は15歳から比叡山で天台教学を学んだのち、専修念仏の教えを説き、浄土宗を開いた。法然門下の親鸞は、悪人正機説を打ち出し、浄土真宗を開く。一方で、栄西は最澄が取り入れた唐時代の禅を南宋時代の禅と入れ替え、新たな信仰である臨済宗を開き、栄西門下の道元は渡宋して曹洞宗を伝え、越前に永平寺を開いた。日蓮は、比叡山や鎌倉等の各地を遊学の後、仏教の基本は法華経にありとして、日蓮宗を広め、独自の信仰を作り上げていく。

以上のように鎌倉時代に成立した新仏教は、室町時代になると大津でさまざまに展開する。浄土真宗本願寺派第8世蓮如は寛正6年（1465）に延暦寺の衆徒によって京都東山の大本願寺が破却されて以来、近江を布教活動の拠点とする。なかでも堅田の全人衆は本福寺、光徳寺（本堅田一丁目）を中心に真宗門徒となった。禅宗も台頭し、臨済宗は大徳寺派の華叟宗曇を開山とする堅田の祥瑞寺（本堅田一丁目）を中心に布教し、堅田の指導者層であった殿原衆の信仰を集めた。曹洞宗では、応永19年（1412）、大津に笠山得仙が清龍寺（長等一丁目）を開き、文明年間（1469～87）には田上中庄の地侍中野宗永父子が法蔵寺（芝原一丁目）を建立した。時宗でも、永徳2年（1382）に国阿が、開祖一遍逗留の故地に正福寺（音羽台）を開いている。一方、天台宗において、真盛は新たな教義を打ち出し、西教寺を円頓戒と念仏弘通の道場として復興させた。西教寺は、聖徳太子が創建し、良源、源信と天台宗の高僧が修行道場としていたとの伝承を持つ寺院である。



写 3-6 西教寺本堂

荘園の展開 延暦寺は近江国に多くの荘園を領有していた。とくに、滋賀郡と高島郡、栗太郡に集中しており、小松庄、比良庄、木戸庄、和邇庄、伊香立庄、真野庄、堅田庄、仰木庄、大津東浦などが知られる。園城寺は大津西浦、藤尾、栗津別保など湖南地方を中心に雄琴庄、苗鹿庄、穴太庄などを領地としていた（図3-1）。

北部地域では、鎌倉時代から小松庄と音羽庄（高島市）、比良庄と音羽庄、木戸・比良庄と葛川、葛川

と伊香立庄、和邇庄と龍華庄の境相論などが繰り返されてきた。いずれも比良山系をめぐる争いであった。また和邇には、朝廷に御供を献上する和邇御厨が置かれた。

南部地域において、勢多(瀬田)川西側は石山寺の寺領であるが、東側は、田上牧庄、大石庄、龍門庄など、変化に富んだ地形とあいまって、性格を異にする荘園が展開していた。この地域では琵琶湖やその周辺の山々の自然の恵みを活用して生業の支えとしており、朝廷の内膳司に魚介類を貢いだ栗津・橋本の供御人や修理職に材木を貢いだ田上の杣人はその代表例といえる。

南北朝の内乱 後醍醐天皇が倒幕の兵をあげた南北朝の内乱は、大津が主要な舞台のひとつとなった。後醍醐天皇は、皇子を天台座主に据えて延暦寺への支配を強め、元弘元年(1331)唐崎浜を舞台に延暦寺と六波羅軍が衝突する。

元弘3年鎌倉幕府は滅亡し、後醍醐天皇によって建武政権が樹立される。しかし建武2年(1335)足利尊氏が離反し、内乱が勃発する。南北両軍の争奪の舞台となったのは、東国から京都へ向かう交通の要衝であった勢多橋で、室町幕府は園城寺に警護を命じている。源氏の嫡流である足利氏の北朝は、園城寺を頼った。しかし、建武3年、園城寺に籠もった足利勢に対し、南朝軍が攻撃をしかけ、全山が灰燼と帰した。園城寺に残る最古の建造物である新羅善神堂は貞和3年(1347)、足利尊氏によって再建されたと伝え、同寺には尊氏の発願になる大蔵経も残されている。

坂本と堅田の繁栄 東国・北国から畿内への物資輸送は、平安時代から琵琶湖を経由するルートが中心を占めており、大津は琵琶湖水運の中核的な港湾機能を果たしていた。ところが、延暦寺・日吉社の繁栄とともに、その門前に位置する坂本が台頭する。水陸交通の結節点である坂本には、金融業者である土倉や各種の問丸(問屋)が軒を連ね、富崎(下阪本六丁目)や比叡辻、京都へ通じる山中越には、輸送業者である馬借や車借が集住した。

一方、堅田は室町時代から戦国時代にかけて堅田惣庄と呼ばれ、侍、農業者、商工業者などが居住していた。侍階層である殿原衆は下鴨神社御厨供御人の系譜を引き、堅田の指導衆の立場であったが、御厨住人が有する自由通行権が琵琶湖にも適用され、それを根拠に力を伸ばしていく。また殿原衆は大津や坂本へ向かう船に対し、上乘権と呼ばれる湖上通行承認権を所持していた。それに対して、農業者や商工業者は全人衆と呼ばれ、日本全国を巡って商いをする商人であった。こうした堅田衆の台頭は、戦国時代には真宗の湖西進出の拠点となっていく。

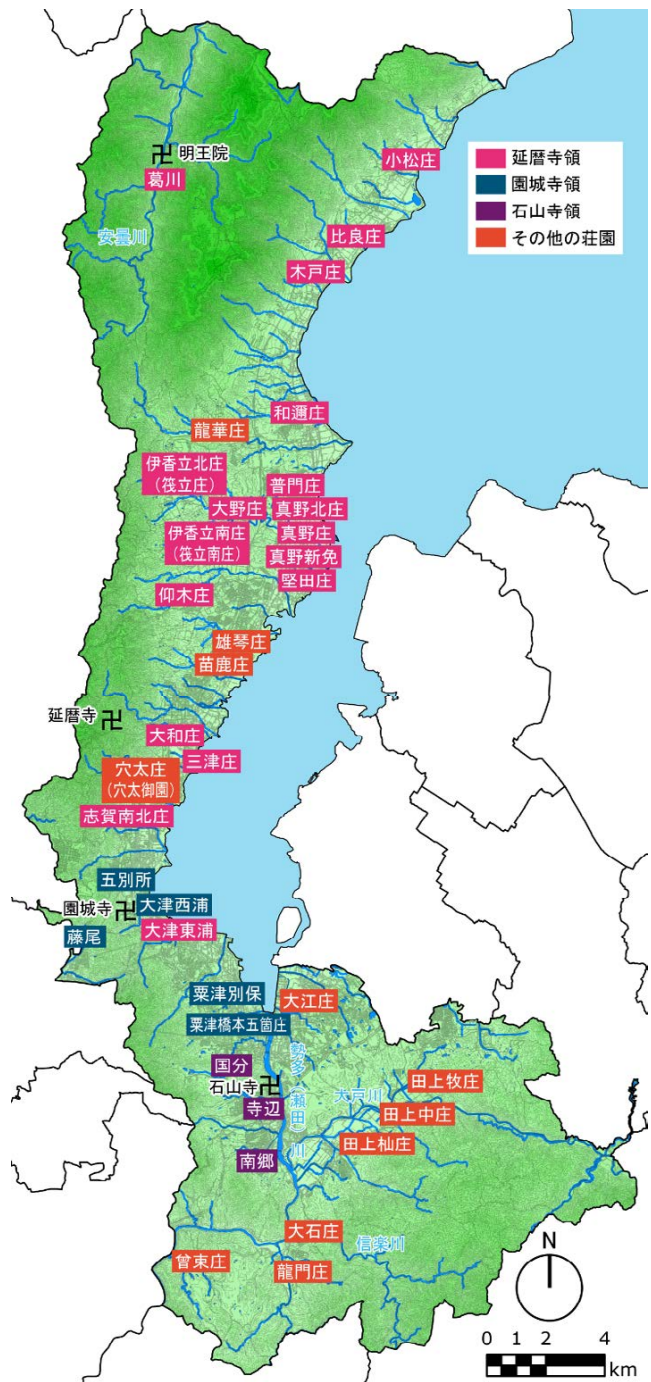


図 3-1 荘園と寺領

応仁の乱と大津 応仁元年（1467）、京都を舞台に応仁の乱が起こると、寺社や公家の中には、戦禍を逃れて大津や坂本に居を構える者もでてきた。寺院では、浄土宗知恩院が伊香立下在地に、真正極楽寺（真如堂）は穴太に移った。乱の終結後は京都に戻るものの、故地にはそれぞれ新知恩院と宝光寺（坂本一丁目）が今も残る。戦乱の中、近江では六角氏による荘園押領が続く。乱の終結後、将軍足利義尚、義材は2度にわたる六角氏征伐を行い、明応元年（1492）には近江平定に一定の成果をあげる。しかし、義材が管領細川政元によってその職を追われると、以後の将軍職は安定を欠き、義澄、義晴、義藤の3代の将軍はたびたび京都を追われて近江を流浪し、義晴は穴太の地で病死する。

応仁の乱以降、各地で新興勢力である地侍が台頭する。堅田では殿原衆が堅田諸侍と呼ばれ、山中の礒谷氏は京都と大津を結ぶ山中越の中間に位置し、交通の要所を掌握して成長した。田上の地侍中野宗成は代官職に任命され、信楽や山城、大和方面への陸上交通を基盤にして力をつけていた。赤穂浪士で著名な大石内蔵助良雄の先祖は、大石荘・龍門荘の有力な在地土豪であった。瀬田では、甲賀郡から移り住んだ山岡氏が、瀬田橋のたもとに瀬田城を築き、陸上交通と瀬田川水運を押さえて、勢力を拡大した。



写 3-7 瀬田城跡（瀬田二丁目）

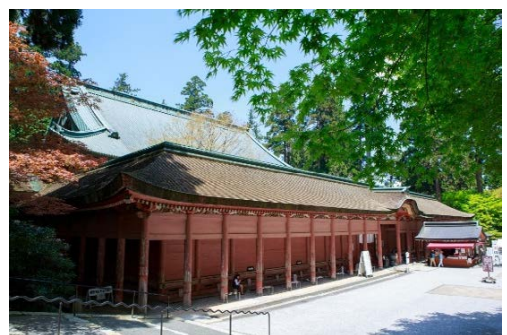
京都を支配した延暦寺 平安時代、延暦寺は朝廷や貴族の崇敬を得て宗教的権威としての地位を不動のものとするが、一方では世俗の権力としてもその存在を強めていった。第18代座主の良源は、大火によって大きな被害を受けた延暦寺を再興するため、摂関家の支援を得、貴族をはじめとした富裕層の出身者を寺に迎え入れる。

また、延暦寺の衆徒（僧侶）はその宗教的権威を活用し、自分たちの護法神である日吉社の神輿を担いで、朝廷に要求をのませることに成功する。院政を開いたことで知られる白河上皇が、天下の「三不如意」（3つの思うようにならないこと）として、賀茂川の水、双六の賽とならんで「山法師」をあげたことはよく知られている。

さらに彼らは園城寺をはじめとする敵対勢力との抗争に備えて強大な武力を保持するようになり、鎌倉幕府の倒幕を図った後醍醐天皇はその武力に頼り、彼らも天皇の期待に応じて奮戦している。このような延暦寺の衆徒に対して、融和策をもって臨んだのが、南北朝を統一した室町幕府3代将軍足利義満である。室町幕府の繁栄は、延暦寺との政治的な協調によってもたらされたといっても過言ではない。

延暦寺の衆徒は多くの荘園の寄進をうけた荘園領主でもあり、豊富な資金を基に金融業を展開し、やがて経済的にも大きな力を持つようになる。鎌倉時代の後期には京都の土倉（金融業者）の多くが延暦寺の支配下に入り、室町時代になると、京都の経済は実質的には彼らの制御下に置かれている。

応仁の乱を経て京都の支配体制は大きく変わるが、それでも16世紀に来日した宣教師のフロイスが「都の政治に関して絶対的支配権を持つ」存在であったと記すように、延暦寺は京都の政治、ひいては日本の歴史を動かす大きな力となっていたのである。



写 3-8 延暦寺根本中堂

(4) 近世（安土桃山時代・江戸時代）

信長の近江支配 永禄11年(1568)、足利義昭^{あしかがよしあき}を奉じて上洛した織田信長^{おだのぶなが}は、近江支配のために配下の武将を要地に配する。京都と大津を結ぶ山中越と逢坂越のふたつの道を守護するため宇佐山城^{うさやま}を築き、森可成^{よしなり}を城主とした。しかし、浅井・朝倉^{あざい あさくら}連合軍との戦いで森可成は討ち死に、やがて元亀2年(1571)信長による山門焼き討ちへと続いていく。この時、信長は延暦寺根本中堂、三塔の諸堂舎、日吉社をことごとく焼き討ちしたとされるが、室町時代後期の特徴を持つ瑠璃堂は、焼き討ち以前の姿を伝える稀有な文化財である。



写 3-9 延暦寺瑠璃堂

山門焼き討ち後、信長は明智光秀^{あけちみつひで}に滋賀郡の支配を命じ、光秀は坂本城を築いた。坂本城は大天守、小天守を備え、城内に湖水を引き込んだ水城であったとされる。坂本城の所在地は長らく不明であったが、昭和54年(1979)下阪本三丁目^{しもさかほんさんぢょうめ}で本丸の遺構が発見された。

大津城と大津百艘船 最後の坂本城主となった浅野長吉^{あさのながよし}は、天正14年(1586)頃坂本城を廃城にし、京・大阪へ通じる大津へ新たに城を築く。大津城の縄張り^{なづかり}は不明なところも多いが、琵琶湖中に築かれた本丸を中心に二の丸、三の丸、伊予丸^{いよまる}などがあつた。城とともに、城下町も坂本から移されており、石川町、小唐崎町、柳町、太間町^{たいま}は下阪本と大津の両方に町名として残っている。



写 3-10 京極高次高札（大津市蔵）

浅野長吉は大津城主の公用を務めるために、大津居住の船持ちに加え坂本、堅田^{このはま}、木浜(守山市)などの諸浦から百艘の船を集めて大津百艘船を組織した。そして、大津浦からの荷物や旅人の輸送を独占的に認めるといふ、特権付与の高札を与えた。浅野長吉以降、増田長盛^{ましたながもり}、新庄直頼^{しんじょうなおより}、京極高次^{きょうごくたかつぐ}と城主は代わるが、いずれも長吉と同様の高札を出し、大津百艘船に保護を加えている。

慶長5年(1600)の関ヶ原合戦では、その前哨戦ともいえる籠城戦が大津城を舞台に繰り広げられた。東軍方の京極高次が大津城で西軍の大部隊を引き止めたことが、東軍勝利の一因となった。関ヶ原合戦に勝利した徳川家康^{とくがわいえやす}は、大津城に入って戦後処理を行っている。その後、徳川家譜代の戸田一西^{とだかずあき}が城主となるものの、城は再建されることなく新たに膳所城が築かれ、膳所藩が置かれた。

大津百町と大津宿 江戸幕府の直轄地となった大津は、大津代官の支配をうけ、大津城本丸跡が代官所と御蔵(幕府蔵)、堀が荷揚げ場として使用された。宿場町、港町、園城寺の門前町として栄えた大津町には100カ町の個別町があり、「大津百町」と呼ばれた。元禄4年(1691)の人口は18,774人を数えており、東海道筋でも屈指の都市であった。

江戸時代の大津は、近江や北国から領主米が集まり、湖岸には幕府の御蔵を筆頭に諸大名の蔵屋敷や商人たちの米蔵が立ち並んでいた。大坂へ直接通じる西廻り海運と江戸を通る東廻り海運の開発は、琵琶湖水運に大きな打撃を与えることになったが、大津港で陸揚げされた物資は、牛車^{うしぐるま}によって京へ輸送された。そのため、江戸時代には牛車専用路である車石^{くるまいし}の敷設や常夜灯の設置、逢坂峠の掘り下げ工事などが実施される。牛車の轍が刻まれた車石は、今も京都―大津間の旧道沿いの各所に残る。

大津が東海道の宿場に指定されたのは、慶長7年(1602)頃と推定されている。宿場の中心となった札の辻には高札場が設けられ、付近には人馬会所もあった。札の辻から上関寺町までは八町通と呼ばれ、2軒の本陣と1軒の脇本陣があり、多くの旅籠屋が軒を連ねた。札の辻は大津宿の中心であると同時に、琵琶湖の西岸を若狭・越前方面へ向かう北国海道(西近江路)の分岐点でもあった。



写3-11 大津町古絵図 寛保2年(個人蔵)

膳所藩政の展開 膳所藩は慶長6年(1601)に戸田一西が膳所崎に膳所城を築城して立藩される。膳所城は大坂方の動きを制する軍事的な役割を担っていた。藩主は戸田氏、本多氏、菅沼氏、石川氏と代わり、慶安4年(1651)、再び本多俊次が城主となり、明治維新まで本多氏の世襲が続く。所領は、立藩時には3万石で、寛永11年(1634)以降は7万石、延宝7年(1679)には6万石と変遷する。

城郭は寛文2年(1662)の大地震以後、北の丸、本丸、二の丸、三の丸が琵琶湖に突き出すかたちで北から一列に並ぶ水城であった。現在、膳所城跡は公園となっており、かつての城門が膳所神社、篠津神社、若宮八幡神社などに移築されている。

このように発展した膳所藩には、藩校 遵義堂が文化5年(1808)に創設され、学問所では習字、素読、算術などの講義がなされ、武芸では剣術、槍術、弓術などが教えられた。また、初期の膳所藩では歴代藩主の庇護により膳所焼と呼ばれる茶陶が焼かれ、茶入や水指に優品を残している。



写3-12 「近江八景図屏風」に見える膳所城 (大津市歴史博物館蔵)

堅田藩の成立と堅田の町並み 元禄11年(1698)に堀田正高が下野佐野から近江の滋賀郡と高島郡に知行を移されて堅田藩が成立する。石高1万石の小藩であったところから、所領支配のため居初、辻、築瀬、竹内氏など中世の堅田諸侍の系譜につらなる郷士を郡方役人に登用し、その下に大庄屋・庄屋をおいて、地方支配にあたらせた。6代藩主堀田正敦は、文政8年(1825)城主格となり、翌9年下野佐野への陣屋替えを命じられた。それ以降、堅田藩は佐野藩となり、堅田には佐野藩の役所が置かれたと推定されている。



写3-13 堅田の町並み

江戸時代、堅田の町並みは、由緒のある寺院や神社に内湖の堀割が核となつてつくりだされた。居初氏庭園(天然図画亭庭園)は郷士たちによって嗜まれた茶道の頂点をなすものであった。また本福寺を中心に、11代住職である千那が芭蕉に親しみ、堅田に「蕉風」を打ち立てるなど俳諧も盛んであった。

名所と名産 中国の瀟湘八景になぞらえて湖南の名勝を選んだ近江八景は、近衛政家が湖国に遊んだ時に詠んだ和歌に始まるとされているが、初代歌川広重などによって近江八景の浮世絵版画が出版されてから広く知られるようになった。近江八景に代表される琵琶湖の風光を愛した芭蕉は、大津のことを「旧里のごとく」と綴り、今も義仲寺（馬場一丁目）に眠っている。

『近江輿地志略』や『伊勢参宮名所図会』には、大津絵が東海道を巡る旅行者の土産物として紹介されている。大津絵は芭蕉が「大津絵の筆のはじめは何仏」と詠み、浄瑠璃の題材になるなど、全国に知られていた。その伝統は現在も受け継がれている。

また、琵琶湖や瀬田川で採れる湖魚や、比良山系の北小松から木戸にかけての村々から切り出された庭石や、田上山で産出される水晶も名産とされた。

大津三大祭 大津市では各地に様々な祭があるが、代表的なものとして、春の山王祭、夏の船幸祭、秋の大津祭がある。

山王祭は日吉大社の祭礼で、3月第一日曜日の神輿上神事から4月15日まで1ヶ月以上に渡って行われる。室町時代から、「日吉山王祭礼図」として多数の絵画作品に描かれてきた。

船幸祭は、近江国一宮・建部大社の祭礼である。祭神日本武尊が景行天皇の命により東国征伐を行った際、船団を組んで海を渡った故事にちなむ。8月17日の夕方、建部大社を出発した神輿は瀬田川を下る。

天孫神社（四宮神社）の祭礼である大津祭は、10月の第2土曜日を宵宮、翌日曜日を本祭とする。3輪の曳山13基は、京都の祇園祭に肩をならべる豪華な懸装品で装われ、各曳山の名称の由来となっているからくりを演じながら、中心市街地を巡行する。



写 3-14 大津絵
(大津市歴史博物館蔵)



写 3-15 大津祭
(大津祭曳山連盟提供)

(5) 近代（明治時代・大正時代）

近代大津の地方行政と大津事件 慶応3年（1867）の王政復古により天皇を中心とする新政権が誕生すると、慶応4年には大津代官所の支配地は政府直轄地となる。その後、大津県が成立し、明治5年（1872）には滋賀県となる。滋賀県庁は大津県庁が置かれた円満院に設置された。こうした制度改革を経て、江戸時代以来、宿場町、港町、門前町として繁栄した大津は、滋賀県の県庁所在地という性格が与えられることになる。さらに、明治8年には歩兵第九連隊が駐屯し、軍都としての一面も持つようになる。

明治22年に市町村制が導入されると、大津町が成立する。その後、明治31年には市制がしかれ、全国で48番目の市として大津市が誕生した。市庁舎は旧町役場を継続使用し、市長および参事会など市政の幹部が任命された。大津市の誕生を契機に城下町としての歴史をもっていた膳所・堅田の両村では、明治34年に町制がしかれて膳所町、堅田町となった。

日本が近代国家として歩み始めた明治24年、ロシアの皇太子ニコライは最初の国賓として来日し、大津にも訪れた。とこ



写 3-16 大津事件の碑（京町二丁目）

ろが、ニコライは警備にあたっていた巡査津田三蔵^{つださんぞう}に斬りつけられ、負傷する。この国際的な事件に対して、大審院が大津に出張して大津地方裁判所で公判が実施された。「大逆罪」の適用により死刑とすべきとの政府に対し、大審院長の児島惟謙^{こじまいけん}は「謀殺未遂」を適用し、津田三蔵は無期徒刑とされ、収監された網走刑務所で病没する。なお、大津事件直後には、県庁を大津市から彦根市に移転しようとする動きが再びおこり、大津市は大きな混乱におちいっていた。

神仏分離と古社寺保存 慶応4年（1868）神仏分離令が發布されると、日吉社では社殿に乱入した神威隊^{しんゐたい}により仏器、仏具などが焼き捨てられた。現在、日吉大社参道両側に並ぶ45基の常夜燈は、日吉社境内の各社殿にあったものが、廃仏毀釈運動で社外に運び出されたものである。これを契機に日吉社の管理権と山王祭^{さんのおうさい}の執行権は延暦寺の手を離れることになった。

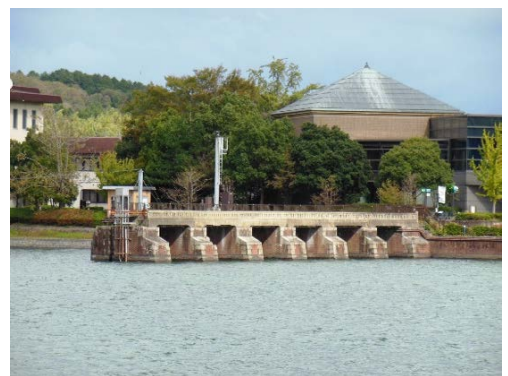
さらに社寺領の上知が行われ、県に引き渡されるに至った。上知によって経済基盤がくずれた社寺から多くの古器旧物が流失する。そのため、太政官は「古器旧物保存方」の布達を出し、宝物類の保存をはかった。明治13年（1880）には主要な社寺に対して「古社寺保存金」の制度をつくり、積極的な保護策を打ち出した。この制度の適用を最初に受けたのは、日吉社、延暦寺、西教寺、石山寺、不動寺、安楽律院^{あんらくりつゐん}、聖衆来迎寺^{しょうじゅらいこうじ}、建部大社であった。

明治20年代に入ると宮内省に臨時全国宝物取調局が設置され、全国で文化財調査が行われた。調査の結果、すぐれたものに「鑑査状」が出され、市内では125枚にのぼった。この調査の成果が契機となって、明治30年に「古社寺保存法」が制定され、これが後の文化財指定・保護につながったといえる。

治山治水と琵琶湖疏水 明治5年（1872）、明治政府は田上山の砂防工事に着手する。田上山は奈良時代から続いた山林伐採によって山肌が荒れ、土砂が大戸川から瀬田川に流入、堆積することで琵琶湖の水位を上昇させ、琵琶湖周辺の村々に水害をもたらす要因のひとつとなっていた。工事はオランダ人技師ヨハネス・デ・レーケの指導を得ながら、全国初の内務省直轄砂防工事として進められた。草津川上流に完成した石造堰堤は「オランダ堰堤」と呼ばれ、天神川上流の鑑ダム^{よろい}とともに、田上山砂防の歴史を今に伝えている。

しかし明治29年、大雨により琵琶湖の水位が急激に上昇し、湖辺地域は冠水して多数の死者、負傷者を出す大水害が発生する。そこで瀬田川の浚渫工事と、南郷地先で琵琶湖の水位を調整する洗堰の建設が着手された。明治38年に完成した南郷洗堰は瀬田川の流量を調整し、水害による被害の軽減につながった。昭和36年（1961）には下流に新洗堰が竣工し、旧洗堰はその役割を終えたが、堰柱の一部が残されている。

明治になると、琵琶湖の水を利用して大津と京都を結ぶ計画が、本格的に検討され始める。滋賀県では反対の声が強かったものの、明治18年に着工された琵琶湖疏水は明治23年に完成し、三保ヶ崎の防波堤・京都築地から三井寺下を通り、京都蹴上^{けあげ}に達する約11.1kmの運河となった。疏水の完成により、京都と大津は緊密に結ばれ、水力発電による工業振興、通船による物資輸送、洛北への灌漑、飲料水の確保など、京都の発展に大きく寄与した。



写 3-17 旧南郷洗堰の堰柱

交通網の整備 近代化の重要課題として明治政府により東京－京都間の鉄道敷設事業が進められた。明治13年（1880）の大津－京都間の鉄道開通にあわせて逢坂山に建設されたトンネルは、イギリス人の指導は受けたものの、初めて日本人の手のみによって完成したものであった。馬場（膳所）－長浜間が開通する明治22年まで、東海道線は旧逢坂山トンネルから、馬場駅でスイッチバックして大津駅（浜

大津)へ通じていた。また、明治15年には大津―長浜間、大津―塩津間を結ぶ太湖汽船が設立され、鉄道開通まで連絡船として活躍する。

大正時代になると私鉄網の整備が進む。大正元年(1912)京都三条―大津札の辻間に開通した京津電気軌道は、同14年に浜大津まで延伸する。その後、京津電気軌道は京阪電気鉄道と合併し、浜大津から大阪まで結ばれた。一方、大津電車軌道は、大正3年、浜大津―蛸谷(石山寺)間が開通、昭和2年(1927)までに浜大津―坂本間が開通する。大津電車軌道もまた京阪電気鉄道と合併し、それぞれの路線は、現在の京阪電車京津線と石山坂本線へと受け継がれていく。



写 3-18 大津電車軌道 三井寺停留場
(大正11年)

琵琶湖西岸では、大正8年、大津市から福井県遠敷郡三宅村(若狭町)までの鉄道敷設と旅客及び貨物輸送の営業免許が与えられ、沿線住民の出資により江若鉄道が誕生する。大正10年、三井寺下―叡山間の営業運転を開始し、昭和6年には浜大津―近江今津間の約51kmが開通した。当初の計画であった福井県まで至ることはなかったが、国鉄湖西線の建設のため昭和44年に廃止となるまで、湖西住民の足として親しまれた。鉄道の整備は、汽船と組み合わせあって琵琶湖の観光振興と結びつく。竹生島や近江八景を巡る湖上遊覧が盛んに行われ、小松の雄松浜は兵庫県の舞子浜になぞらえて近江舞子と呼ばれ、湖水浴場の名所となり県内外から多くの観光客が訪れた。

近代の文化 アーネスト・F・フェノロサは明治11年(1878)、東京帝国大学に着任する。フェノロサは岡倉天心とともに社寺、旧家の美術調査を行い、文化財保護の基礎をつくとともに、日本美術を世界へ紹介した。フェノロサは園城寺法明院と縁が深く、死後、フェノロサ夫人の依頼によって法明院の一面に葬られた。



写 3-19 法明院 フェノロサの墓

明治以降の近代京都画壇では、長谷川玉純、渡辺公観といった大津ゆかりの画家が活躍する。なかでも帝室技芸員の山元春挙は、生まれ故郷の中庄に別邸として近代和風建築の蘆花浅水荘を建設し、大津を代表する近代建築として今に残る。また、住友総理事を勤めた伊庭貞剛が引退後の住居として、瀬田川を眼下に臨む螢谷の高台に明治37年に建設した住友活機園(伊庭貞剛記念館)は、県内唯一の洋風と和風が組み合わせられた近代建築である。

大正時代には伝統技術の復興がなされ、岩崎健三が膳所焼を、村治一瑳が坂本で鋳物師の技術を復興した。また、偉人の顕彰運動が進められたのもこの頃であった。木戸では相撲行司の祖である志賀清林の「墓」が発見され、大正7年(1918)には志賀清林会によって顕彰碑が建立される。栗原では江戸時代の儒学者熊沢蕃山関係資料の保存と顕彰を目的に近江蕃山会が結成されている。

(6) 現代（昭和・平成）

「大大津市」の誕生と軍都大津 昭和7年（1932）、大津市と滋賀村が合併し、翌8年には膳所町、石山町と合併して、「大大津市」が誕生する。新しく誕生した新市の人口は7万人弱、面積は62.48km²で、面積は大津市制施行時の4.4倍となった。この時代の大津市は、都市計画指定都市として「遊覧都市」を目指し、歴史的文化財を活用しながら、道路、湖岸の埋め立て、水道など近代都市としての基盤整備が進められた。寺社建築をモデルとした和風3階建ての琵琶湖ホテルが開業したのは、昭和11年のことである。



写 3-20 旧琵琶湖ホテル本館
(昭和30年代)

また一方で、大津は軍都という一面を持っていた。明治8年（1878）、園城寺の旧境内を中心に兵舎、練兵場が設けられ、歩兵第九連隊が駐屯した。第九連隊は、西南戦争を皮切りに、日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦へ出征する。大正14年（1925）、第九連隊の主力部隊は京都の深草に移転したが、昭和15年、陸軍の軍令改正により大津連隊区司令部が復活した。また、昭和16年以降、下阪本に大津海軍航空隊、唐崎から際川付近に滋賀海軍航空隊、別所に大津陸軍少年飛行兵学校が置かれ、多くのパイロットが養成された。

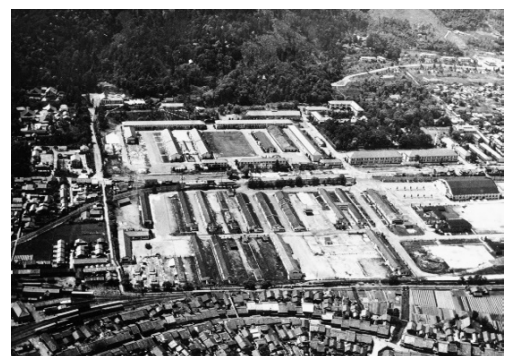
紀元二千六百年記念関連事業 昭和15年（1940）を紀元2600年として、全国で祝賀行事や記念事業が行われる。大津市では記念事業として近江神宮が創建された。近江神宮の創建運動は、明治41年（1908）の大津市制10周年からはじまり、昭和15年11月に鎮座式が盛大に開催される。多くの人々が勤労奉仕に参加して建設が進められ、日中戦争の戦時体制下にあったことから、愛国心を高める契機となった。



写 3-21 創建当初の近江神宮

また近江神宮創建の過程において、大津宮の所在地を特定しようという動きが活発になる。発掘調査は、昭和3年に一部実施され、大津宮と関わりの深い崇福寺跡と南滋賀町廃寺跡が発見された。昭和13・14年に記念事業として両寺跡の再調査がなされ、昭和15年12月に崇福寺跡が国の史跡に指定された。なお大津宮は、昭和49年に錦織で内裏の一画が発見され、初めて所在地が確定されることになった。このほかにも「大津史跡巡りコース」を定めて14ヶ所の史跡を詳しく解説したパンフレットの発行、大津市主催「大津歴史展覧会」の開催、「大津市史」全3巻の発行なども記念事業として実施された。

戦後の合併と都市づくり 昭和20年（1945）10月、日本の敗戦によりアメリカ太平洋陸軍を中心とする占領軍が、大津に進駐した。将校専用宿舎として琵琶湖ホテルが接收され、占領軍は下阪本・際川・別所の航空隊兵舎に駐屯した。キャンプ大津にはアメリカ極東軍南西地区司令部が置かれ、昭和32年の撤収まで駐留が続く。



写 3-22 キャンプ大津A地区（御陵町他）

昭和33年以降、キャンプ大津の返還運動が開始され、キャンプA地区は市民文化会館、旧練兵場跡は総合運動公園、陸上競技場、皇子山体育館として整備される。キャンプB地区は、唐崎幼稚園、保育園、小学校、中学校として開園・開校し、文教ゾーンが形成されていった。

昭和 24 年に、「大大津市建設に関する意見書」が市会に提出され、1 市（大津市）1 町（瀬田町）6 村（雄琴村、坂本村、下阪本村、大石村、下田上村、上田上村）の合併を目指す。合併の相手先をめぐっては紆余曲折あったが、大津市は昭和 26 年に瀬田町と上田上村を除いた 5 村と合併した。一方、昭和 30 年に小松村・木戸村・和邇村が合併して志賀町、堅田町・葛川村・伊香立村・真野村・仰木村が合併して堅田町、瀬田町と上田上村が合併して瀬田町となった。さらに昭和 42 年には、大津市と瀬田町、堅田町が合併し、市域はさらに拡大する（11 頁、表 2-2 参照）。

高度経済成長と交通網の拡大 戦後には交通網の整備も進められ、昭和 24 年（1949）から昭和 31 年にかけて東海道線京都―米原間の電化工事が行われたことで、大津・膳所・石山の各駅の乗降客は大きく伸び、荷物取扱量も増大した。昭和 44 年、瀬田駅が開業し、昭和 45 年には京都―草津間複々線化が完成する。また、東京オリンピックに合わせて東海道新幹線が敷設された。

湖西住民の足として活躍した江若鉄道は国鉄湖西線建設のため昭和 44 年に営業を終了するが、昭和 49 年に開通した湖西線には、西大津（現在の^{こうじやく}大津京）から北小松まで 10 駅が設置された。湖西線の開通は、京阪神への利便性を増す一方で、江若鉄道の始発として賑わった浜大津では人の流れが大きく変わるようになった。

高度経済成長は、大津の都市的発展にも大きな影響を与えた。昭和 20 年代後半より湖岸の埋め立てによる観光道路の建設、国道 1 号の改修工事、名神高速道路の開通、瀬田川大橋・琵琶湖大橋・近江大橋の架橋など、鉄道とならんで道路網の整備も進められた。高度経済成長後も道路建設は進められ、西大津バイパス・湖西道路の開通、国道 367 号の整備、京滋バイパスの開通、新名神高速道路の開通をみている。

昭和 30 年から 40 年代にかけては大規模な住宅開発が行われ、音羽台団地や朝日ヶ丘団地といった公営団地が建設される。また、竜が丘、湖城が丘、秋葉台、富士見台、衣川台、日吉台、比叡平団地、びわ湖ローズタウンなど住宅地域の開発も進む。とくに湖西線沿線の住宅地化が進み、昭和 63 年には小野駅が開業する。

また、昭和 30 年代は電化製品の普及によって、琵琶湖の水資源を利用した化学・紡織製造業から電気器具製造業へと、大津の工業構成が変化した時代でもあった。水道や家電の普及により暮らしが豊かになる半面、生活排水が増え、同時に工業排水も増えて琵琶湖の水質汚染が問題となる。琵琶湖の富栄養化や汚染に対応するため、合成洗剤の追放運動や下水処理の進化など環境保全が行われた。

昭和 47 年には琵琶湖総合開発特別措置法が施行され、利水、治水、保全という 3 本の柱のもと、水道施設建設、漁業振興事業、流入河川の整備や水源林整備、下水道建設や自然公園建設などが進められ、平成 9 年（1997）に完了する。

国際文化観光都市 昭和 25 年（1950）、琵琶湖は国定公園の指定を受けた。その前年には、「琵琶湖八景」の選定が行われている。これは、近江八景に対して滋賀県の新しい観光対象を選定し、観光資源豊かな滋賀を内外に示そうという趣旨から行われたものであった。そして昭和 26 年、大型観光船「玻璃丸」が進水し、湖上遊覧を軸とした琵琶湖観光が展開する。昭和 30 年代には比叡山ドライブウェイが開通、比良山の観光開



写 3-23 湖岸の埋め立て
(松本付近・昭和 31 年)



写 3-24 サンケイバレイ
(昭和 41 年 谷本勇撮影)

発も行われる。比良山には登山リフトやロープウェイが作られ、スキー場（サンケイバレイ、現、びわ湖バレイ）が開設、京阪神に近いことから多くの観光客が訪れた。

昭和 43 年、日本万国博覧会開催に先駆け、大津市制 70 年と滋賀県政 100 年の記念行事として、びわこ大博覧会が打出浜で開催される。びわこ博には「万博館」が設けられ、翌年大阪府の千里丘陵で開催される「万国博への序曲」をうたって宣伝し、会期中の入場者数は 98.5 万人を数えた。

このような背景には、昭和 33 年、大津市を広く内外に紹介し、国際文化の向上、文化観光資源の維持開発と文化観光施設の充実によって、将来の近畿観光圏建設の一翼を担う都市とする「国際文化観光都市」宣言がある。国際文化観光都市の建設に向けて取り組む中で、市民としての日常生活の心構えとして 5 条からなる大津市民憲章が制定された。

その後も、大津市総合計画基本計画において、地域に残る歴史伝統文化の保存継承、市民が活動しやすい文化環境の整備、他地域との文化交流の推進、観光の振興に加え、歴史博物館や大津祭曳山展示館をはじめとした数多くの文化施設の整備が進められてきた。そして平成 6 年（1994）に延暦寺を含む京都市、宇治市、大津市にまたがる 17 の社寺城が「古都京都の文化財（京都市・宇治市・大津市）」として世界遺産に登録され、平成 15 年には古都保存法に基づき全国 10 番目の古都指定を受けることになった。

平成の合併とこれからの大津 平成 10 年（1998）に市制 100 周年を迎えた大津市は、平成 18 年に志賀町と合併する。昭和 52 年（1977）に「大津市・志賀町行政事務組合」が結成され、一般廃棄物処理施設や斎場の設置及び管理運営にあたるなど、両者の行政上のつながりは緊密なものとなっていたなかでの合併であった。大津市の人口は 32 万人を超え、平成 21 年に中核市へ移行する。

合併から 10 年を経て策定された「大津市総合計画 2017」では、まちづくりの基本理念である 3 本の柱のひとつに「自然、歴史、文化の保全、再生、活用」を掲げ、歴史・文化遺産の保全・発信、古都にふさわしい景観づくりを具体的な施策とする。大津市のまちづくりに関する市民意見でも、歴史研究、文化財の保存・活用に対する満足度は平均値を超えており、果すべき役割はますます重要となっていくであろう。



写 3-25 上空から大津市を望む

3-2 大津市の歴史文化遺産

(1) 世界遺産

平成6年(1994)、「古都京都の文化財(京都市・宇治市・大津市)」がわが国で5件目の世界遺産(世界文化遺産では3件目)に登録された。

「古都京都の文化財(京都市・宇治市・大津市)」は、京都市、宇治市と本市の3市に点在する計17件の構成資産からなり、世界遺産の登録基準のうち、「(ii) 建築、科学技術、記念碑、都市計画、景観設計の発展に重要な影響を与えた、ある期間にわたる価値感の交流又はある文化圏内での価値観の交流を示すものである。」、「(iv) 歴史上の重要な段階を物語る建築物、その集合体、科学技術の集合体、あるいは景観を代表する顕著な見本である。」(「世界遺産条約履行のための作業指針」(文化財オンライン:文化庁)による訳文)を満たすとして登録された。本市では延暦寺が構成資産となっている。

(2) 指定等文化財

令和元年(2019)6月1日現在の大津市内の指定等文化財は計671件である。

国指定・選定が330件、県指定・選択81件、市指定が128件、国登録が132件である。種別では、建造物が222件と最も多く、彫刻が131件と続く。滋賀県全体の国指定・選定・選択文化財は923件(令和元年6月1日現在)であり、このうち36%を大津市が占める。また、国宝も計36件(建造物9件、絵画3件、彫刻3件、工芸品3件、書跡等17件、考古資料1件で滋賀県全体の国宝56件のうちの64%)があり、大津市は優れた歴史文化遺産の宝庫といえる(表3-1)。

美術工芸品を除く指定・選定文化財の分布をみると、市域の中北部から中南部に集積している(図3-2)。大津市の指定文化財の分布は、延暦寺を除き、琵琶湖岸に発達した市街地に集中している。これは登録文化財の分布についても同様の傾向が見られる(図3-3)。

表3-1 指定等文化財の件数一覧(令和元年6月1日現在)

種別		国	県	市	国	計	
		指定・選定	指定・選択	指定	登録		
有形文化財	建造物	62 (うち国宝9)	11	21	128	222	
	美術工芸品	絵画	59 (うち国宝3)	13	22	0	94
		彫刻	95 (うち国宝3)	9	27	0	131
		工芸品	23 (うち国宝3)	11	9	0	43
		書跡等	53 (うち国宝17)	12	10	0	75
		考古資料	8 (うち国宝1)	7	8	0	23
	歴史資料	5	3	5	0	13	
無形文化財		0	2	0	-	2	
民俗文化財	有形民俗文化財	0	3	6	2	11	
	無形民俗文化財	1	5	5	-	11	
記念物	史跡	15	1	10	0	26	
	名勝	5	4	1	2	12	
	天然記念物	2	0	4	0	6	
伝統的建造物群	重要伝統的建造物群保存地区	1	0	0	-	1	
文化的景観	重要文化的景観	0	-	-	-	0	
文化財の保存技術	選定保存技術	1	0	0	-	1	
計		330	81	128	132	671	

※名勝でかつ史跡に指定されているものは〔名勝〕に含む。

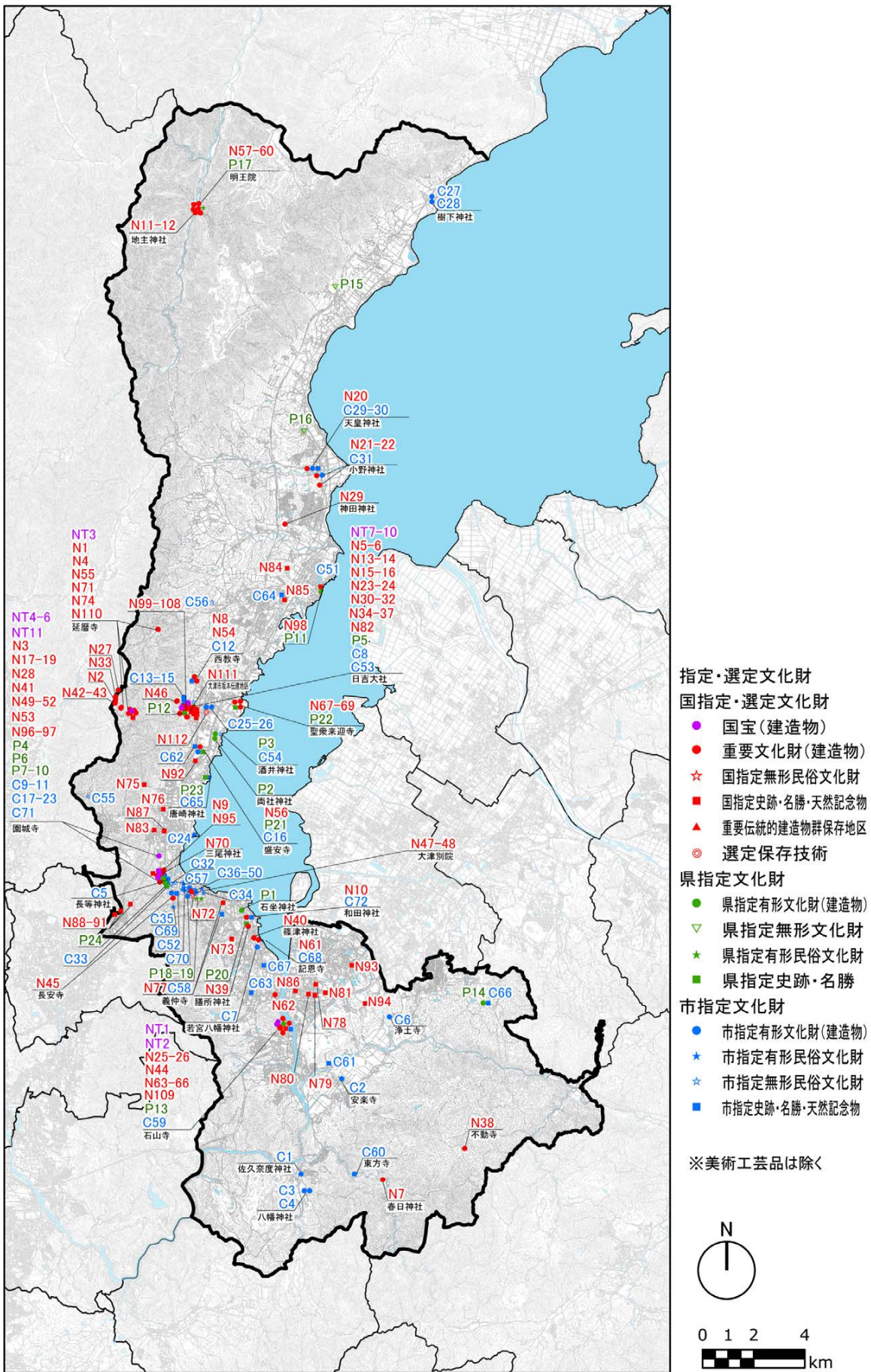


図 3-2 指定・選定文化財の分布（美術工芸品を除く）

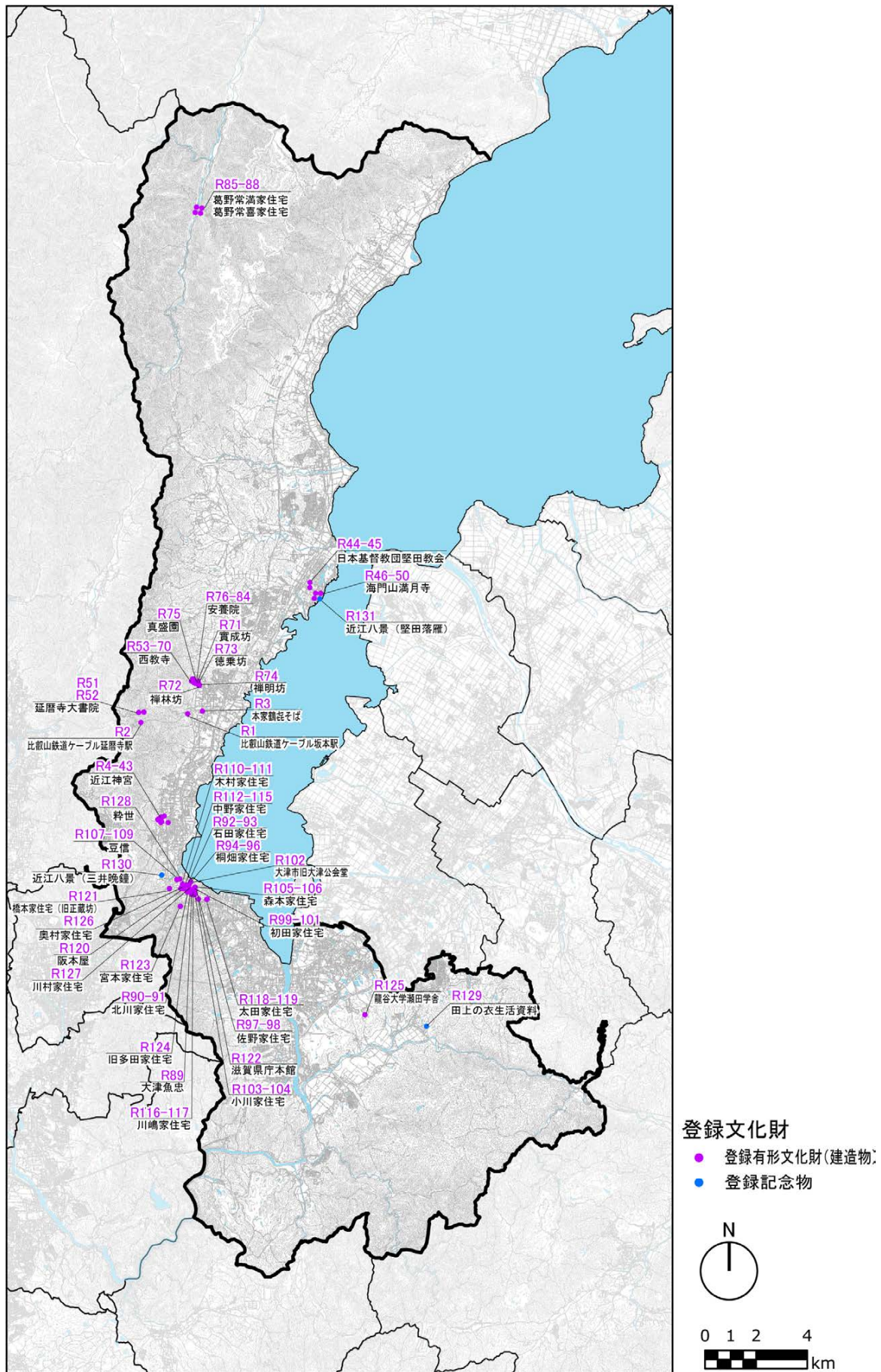


図 3-3 登録文化財の分布

表 3-2 国指定・選定文化財一覧（1/5）

図 No.	区分	種別	名称	員数	所有者	時代	指定・選定年月日	
NT1	国指定	国宝	建造物	石山寺本堂	1棟	石山寺	平安・桃山	M31.12.28
NT2	国指定	国宝	建造物	石山寺多宝塔	1基	石山寺	鎌倉	M32.4.5
NT3	国指定	国宝	建造物	延暦寺根本中堂	1棟	延暦寺	江戸	M32.4.5
NT4	国指定	国宝	建造物	光浄院客殿	1棟	園城寺	桃山	M34.3.27
NT5	国指定	国宝	建造物	勸学院客殿	1棟	園城寺	桃山	M34.3.27
NT6	国指定	国宝	建造物	園城寺新羅善神堂	1棟	園城寺	室町	M34.3.27
NT7, NT8	国指定	国宝	建造物	日吉大社東本宮本殿及び拝殿	2棟	日吉大社	桃山	M34.8.2
NT9, NT10	国指定	国宝	建造物	日吉大社西本宮本殿及び拝殿	2棟	日吉大社	桃山	M34.8.2
NT11	国指定	国宝	建造物	園城寺金堂	1棟	園城寺	桃山	M39.4.14
N1	国指定	重要文化財	建造物	延暦寺根本中堂廻廊	1棟	延暦寺	江戸	M32.4.5
N2	国指定	重要文化財	建造物	延暦寺転法輪堂	1棟	延暦寺	室町	M33.4.7
N3	国指定	重要文化財	建造物	園城寺大門(仁王門)	1棟	園城寺	室町	M33.4.7
N4	国指定	重要文化財	建造物	延暦寺戒壇院	1棟	延暦寺	江戸	M34.8.2
N5, N6	国指定	重要文化財	建造物	日吉大社撰社宇佐宮本殿及び拝殿	2棟	日吉大社	桃山	M34.8.2
N7	国指定	重要文化財	建造物	春日神社本殿	1棟	春日神社	鎌倉	M35.4.17
N8	国指定	重要文化財	建造物	西教寺客殿	1棟	西教寺	桃山	M35.7.31
N9	国指定	重要文化財	建造物	圓滿院宸殿	1棟	大岡寺	桃山	M35.7.31
N10	国指定	重要文化財	建造物	和田神社本殿	1棟	和田神社	鎌倉	M35.7.31
N11	国指定	重要文化財	建造物	地主神社本殿	1棟	地主神社	室町	M36.4.15
N12	国指定	重要文化財	建造物	地主神社幣殿	1棟	地主神社	室町	M36.4.15
N13, N14	国指定	重要文化財	建造物	日吉大社撰社樹下神社本殿及び拝殿	2棟	日吉大社	桃山	M39.4.14
N15, N16	国指定	重要文化財	建造物	日吉大社撰社白山姫神社本殿及び拝殿	2棟	日吉大社	桃山	M39.4.14
N17	国指定	重要文化財	建造物	園城寺關御井屋	1棟	園城寺	桃山	M39.4.14
N18	国指定	重要文化財	建造物	園城寺一切経蔵(経堂)	1棟	園城寺	室町	M39.4.14
N19	国指定	重要文化財	建造物	園城寺塔婆(三重塔)	1基	園城寺	室町	M39.4.14
N20	国指定	重要文化財	建造物	天皇神社本殿	1棟	天皇神社	鎌倉	M40.8.28
N21	国指定	重要文化財	建造物	小野神社境内社箕輪神社本殿	1棟	小野神社	室町	M40.8.28
N22	国指定	重要文化財	建造物	小野神社飛地境内社道風神社本殿	1棟	小野神社	室町	M40.8.28
N23	国指定	重要文化財	建造物	日吉大社撰社牛尾神社本殿及び拝殿	2棟	日吉大社	桃山	M40.8.28
N24	国指定	重要文化財	建造物	日吉大社撰社三宮神社本殿及び拝殿	2棟	日吉大社	桃山	M40.8.28
N25	国指定	重要文化財	建造物	石山寺東大門	1棟	石山寺	桃山	M40.8.28
N26	国指定	重要文化財	建造物	石山寺鐘楼	1棟	石山寺	鎌倉	M40.8.28
N27	国指定	重要文化財	建造物	延暦寺瑠璃堂	1棟	延暦寺	室町	M45.2.8
N28	国指定	重要文化財	建造物	園城寺食堂(釈迦堂)	1棟	園城寺	室町	M45.2.8
N29	国指定	重要文化財	建造物	神田神社本殿	1棟	神田神社	室町	T2.4.14
N30	国指定	重要文化財	建造物	日吉大社西本宮楼門	1棟	日吉大社	桃山	T6.4.5
N31, N32	国指定	重要文化財	建造物	日吉大社社東照宮 本殿、石の間、拝殿・唐門・透塀	3棟	日吉大社	江戸	T6.4.5
N33	国指定	重要文化財	建造物	延暦寺相輪櫓	1基	延暦寺	明治	T6.8.13
N34-N36	国指定	重要文化財	建造物	日吉大社日吉三橋	3基	日吉大社	桃山	T6.8.13
N37	国指定	重要文化財	建造物	日吉大社東本宮楼門	1棟	日吉大社	桃山	T12.3.28
N38	国指定	重要文化財	建造物	不動寺本堂	1棟	不動寺	室町	T13.4.15
N39	国指定	重要文化財	建造物	膳所神社表門	1棟	膳所神社	江戸	T13.4.15
N40	国指定	重要文化財	建造物	篠津神社表門	1棟	篠津神社	桃山	T13.4.15
N41	国指定	重要文化財	建造物	園城寺毘沙門堂	1棟	園城寺	江戸	S27.3.29
N42, N43	国指定	重要文化財	建造物	延暦寺常行堂及び法華堂	2棟	延暦寺	桃山	S30.6.22
N44	国指定	重要文化財	建造物	石山寺宝篋印塔	1基	石山寺	室町	S32.3.23
N45	国指定	重要文化財	建造物	長安寺宝塔	1基	長安寺	鎌倉	S35.2.9
N46	国指定	重要文化財	建造物	旧宝寿院宝篋印塔	1基	個人	鎌倉	S36.3.23
N47	国指定	重要文化財	建造物	大津別院本堂	1棟	大津別院	江戸	S36.6.7
N48	国指定	重要文化財	建造物	大津別院書院	1棟	大津別院	江戸	S36.6.7
N49-N52	国指定	重要文化財	建造物	園城寺書院 大師堂、唐門、灌頂堂、四脚門	4棟	園城寺	桃山・江戸	S42.6.15
N53	国指定	重要文化財	建造物	園城寺鐘楼	1棟	園城寺	桃山	S42.6.15
N54	国指定	重要文化財	建造物	西教寺本堂	1棟	西教寺	江戸	S61.5.24
N55	国指定	重要文化財	建造物	延暦寺大講堂(旧東照宮本地堂)	1棟	延暦寺	江戸	S62.6.3
N56	国指定	重要文化財	建造物	盛安寺客殿	1棟	盛安寺	江戸	H5.8.17
N57-N60	国指定	重要文化財	建造物	明王院 本堂、護摩堂、庵室、政所表門	4棟	明王院	江戸	H5.12.9
N61	国指定	重要文化財	建造物	蘆花浅水荘 本屋、離れ、持仏堂、渡り廊下、表門、土蔵	6棟	記念寺	大正	H6.12.27
N62	国指定	重要文化財	建造物	旧所蔵家住宅(住友清機卿) 洋館、和館、新座敷、東蔵、西蔵、正門	6棟	住友林業株式会社	明治	H14.5.23
N63-N66	国指定	重要文化財	建造物	石山寺 御影堂、蓮如堂、三十八所権現社本殿、経蔵	4棟	石山寺	室町・桃山	H20.12.2
N67-N69	国指定	重要文化財	建造物	聖衆来迎寺 客殿、開山堂、本堂、表門	4棟	聖衆来迎寺	江戸	H26.9.18
N70	国指定	重要文化財	建造物	三尾神社本殿	1棟	三尾神社	室町	H26.12.10
N71	国指定	重要文化財	建造物	延暦寺 文殊楼、山王社、浄土院伝教大師御廟附・棟札1枚、浄土院唐門、浄土院拝殿、阿弥陀堂鐘楼、西塔鐘楼、四季講堂 附・厨子1基 棟札5枚、元三大師御廟拝殿 附・御廟瑞垣1棟 鳥居1基、横川鐘楼、慈眼堂 附・厨子1基	11棟	延暦寺	江戸	H28.7.25
	国指定	国宝	絵画	絹本着色六道絵	15幅	聖衆来迎寺	鎌倉	M30.12.28
	国指定	国宝	絵画	絹本着色不動明王像(黄不動尊)	1幅	園城寺	平安	M33.4.7
	国指定	国宝	絵画	紙本墨画五部心観(完本)、紙本墨画五部心観(巻初を欠く)	2巻	園城寺	唐・平安	S13.7.4
	国指定	国宝	彫刻	木造智証大師坐像(御廟安置)	1軀	園城寺	平安	M33.4.7
	国指定	国宝	彫刻	木造智証大師坐像(御骨大師)	1軀	園城寺	平安	M33.4.7
	国指定	国宝	彫刻	木造新羅明神坐像(新羅善神堂安置)	1軀	園城寺	平安	M33.4.7
	国指定	国宝	工芸品	宝相華時絵経箱	1合	延暦寺	平安	M33.4.7

表 3-2 国指定・選定文化財一覧(2/5)

図 No.	区分	種別	名称	員数	所有者	時代	指定・選定年月日	
	国指定	国宝	工芸品	金銅経箱	1合	延暦寺	平安	T15.4.19
	国指定	国宝	工芸品	七条刺納袷姿、刺納衣	1領、1領	延暦寺	隋	S39.5.26
	国指定	国宝	書跡等	伝教大師将来目録	1巻	延暦寺	平安	M30.12.28
	国指定	国宝	書跡等	羯磨金剛目録	1巻	延暦寺	平安	M30.12.28
	国指定	国宝	書跡等	延暦交替式	1巻	石山寺	平安	M30.12.28
	国指定	国宝	書跡等	越中国官倉納穀交替記残巻	1巻	石山寺	平安	M30.12.28
	国指定	国宝	書跡等	天台法華宗年分縁起	1巻	延暦寺	平安	M33.4.7
	国指定	国宝	書跡等	六祖惠能伝	1巻	延暦寺	唐	M33.4.7
	国指定	国宝	書跡等	伝教大師入唐牒	1巻	延暦寺	唐	M33.4.7
	国指定	国宝	書跡等	智証大師関係文書典籍		園城寺	平安・唐	M33.4.7
	国指定	国宝	書跡等	玉篇卷第七 後半	1巻	石山寺	唐	M33.4.7
	国指定	国宝	書跡等	周防国玖珂郡玖珂郷延喜八年戸籍残巻	1巻	石山寺	平安	M33.4.7
	国指定	国宝	書跡等	漢書	2巻	石山寺	奈良	M33.4.7
	国指定	国宝	書跡等	史記卷第九十六、九十七残巻	1巻	石山寺	奈良	M33.4.7
	国指定	国宝	書跡等	嵯峨天皇宸翰光定戒牒	1巻	延暦寺	平安	S28.11.14
	国指定	国宝	書跡等	春秋経伝集解巻第廿六残巻	1巻	石山寺	平安	S28.11.14
	国指定	国宝	書跡等	春秋経伝集解巻第廿九残巻	1巻	石山寺	平安	S28.11.14
	国指定	国宝	書跡等	釈摩訶衍論	5帖	石山寺	唐	S28.11.14
	国指定	国宝	書跡等	淳祐内供奉聖教(薰聖教)	73巻、1帖	石山寺	平安	S34.6.27
	国指定	国宝	考古資料	崇福寺塔心礎納置品		近江神宮	奈良	S19.9.5
	国指定	重文	絵画	絹本着色阿弥陀二十五菩薩来迎図	1幅	新知恩院	鎌倉	M30.12.28
	国指定	重文	絵画	絹本着色当麻曼荼羅図	1幅	西教寺	鎌倉	M30.12.28
	国指定	重文	絵画	絹本着色十二天像	12幀	聖衆来迎寺	鎌倉	M30.12.28
	国指定	重文	絵画	絹本着色仏涅槃図	1幅	石山寺	鎌倉	M30.12.28
	国指定	重文	絵画	紙本着色石山寺縁起	7巻	石山寺	鎌倉・室町・江戸	M30.12.28
	国指定	重文	絵画	絹本着色天台大師像有賛	1幅	延暦寺	鎌倉	M33.4.7
	国指定	重文	絵画	絹本着色天台大師像	1幅	延暦寺	鎌倉	M33.4.7
	国指定	重文	絵画	絹本着色山王本地仏像	1幅	延暦寺	南北朝	M33.4.7
	国指定	重文	絵画	絹本着色毘沙門天像	1幅	実蔵坊	鎌倉	M33.4.7
	国指定	重文	絵画	絹本着色不動明王二童子像	1幅	大林院	鎌倉	M33.4.7
	国指定	重文	絵画	絹本着色地藏菩薩像	1幅	明徳院	鎌倉	M33.4.7
	国指定	重文	絵画	絹本着色弥陀三尊二十五菩薩来迎図	1幅	安楽律院	鎌倉	M33.4.7
	国指定	重文	絵画	絹本着色千手観音像	1幅	安楽律院	鎌倉	M33.4.7
	国指定	重文	絵画	絹本着色阿弥陀如来像(迅雲弥陀如来)	1幅	西教寺	南北朝	M33.4.7
	国指定	重文	絵画	絹本着色釈迦如来像(持鉢釈迦如来)	1幅	西教寺	鎌倉	M33.4.7
	国指定	重文	絵画	絹本着色阿弥陀如来像	1幅	西教寺	鎌倉	M33.4.7
	国指定	重文	絵画	絹本着色天台大師像	1幅	西教寺	南宋	M33.4.7
	国指定	重文	絵画	絹本着色山王諸神像	1幅	西教寺	鎌倉	M33.4.7
	国指定	重文	絵画	絹本着色釈迦三尊十六善神図	1幅	聖衆来迎寺	鎌倉	M33.4.7
	国指定	重文	絵画	絹本着色阿弥陀廿五菩薩来迎図	1幅	聖衆来迎寺	鎌倉	M33.4.7
	国指定	重文	絵画	絹本着色十六羅漢図	2幅	聖衆来迎寺	室町	M33.4.7
	国指定	重文	絵画	絹本着色黄金剛童子像	1幅	園城寺	鎌倉	M33.4.7
	国指定	重文	絵画	絹本着色尊星王像	1幅	園城寺	鎌倉	M33.4.7
	国指定	重文	絵画	絹本着色多聞天像	1幅	園城寺	鎌倉	M33.4.7
	国指定	重文	絵画	絹本着色不動明王八大童子像	1幅	園城寺	鎌倉	M33.4.7
	国指定	重文	絵画	絹本着色八大仏頂曼荼羅図	1幅	園城寺	鎌倉	M33.4.7
	国指定	重文	絵画	絹本着色天台大師像	2幅	園城寺	鎌倉	M33.4.7
	国指定	重文	絵画	絹本着色閻魔天像	1幅	園城寺	鎌倉	M33.4.7
	国指定	重文	絵画	絹本着色水天像	1幅	園城寺	鎌倉	M33.4.7
	国指定	重文	絵画	絹本着色涅槃像	1幅	園城寺	室町	M33.4.7
	国指定	重文	絵画	絹本着色尊勝曼荼羅図	1幅	園城寺	鎌倉	M33.4.7
	国指定	重文	絵画	絹本着色新羅明神像	1幅	園城寺	鎌倉	M33.4.7
	国指定	重文	絵画	絹本着色不動明王像	1幅	園城寺	鎌倉	M33.4.7
	国指定	重文	絵画	絹本着色不動明王二童子像	1幅	園城寺	鎌倉	M33.4.7
	国指定	重文	絵画	絹本着色両界曼荼羅図	2幅	園城寺	南北朝	M33.4.7
	国指定	重文	絵画	絹本着色不動明王二童子像	1幅	石山寺	鎌倉	M33.4.7
	国指定	重文	絵画	紙本着色源氏物語 末摘花巻(伝光起筆)	1巻	石山寺	江戸	M33.4.7
	国指定	重文	絵画	紙本着色扇面古写経	1幅	西教寺	平安	M34.3.27
	国指定	重文	絵画	絹本着色文殊菩薩像	1幅	延暦寺	鎌倉	M41.4.23
	国指定	重文	絵画	絹本着色不動二童子像	1幅	恵光院	鎌倉	M41.4.23
	国指定	重文	絵画	絹本着色楊柳観音像	1幅	聖衆来迎寺	高麗	M41.4.23
	国指定	重文	絵画	絹本着色釈迦十六善神像	1幅	園城寺	鎌倉	M41.4.23
	国指定	重文	絵画	紙本着色光明真言功德絵詞	3巻	明王院	室町	T9.4.15
	国指定	重文	絵画	絹本着色十六羅漢像	12幅	大練寺	鎌倉	T12.3.28
	国指定	重文	絵画	金地著色滝図他(勸学院)	15面	園城寺	桃山	S4.4.6
	国指定	重文	絵画	紙本着色松三山鳥、鴨、鶯鶯図他	24面	園城寺	桃山	S4.4.6
	国指定	重文	絵画	紙本着色山王靈験記	1巻	延暦寺	室町	S13.7.4
	国指定	重文	絵画	絹本着色豊臣秀吉像	1幅	西教寺	桃山	S17.6.26
	国指定	重文	絵画	絹本着色六道絵	6幅	新知恩院	南宋	S39.5.26
	国指定	重文	絵画	絹本着色相応和尚像	1幅	延暦寺	鎌倉	S39.5.26
	国指定	重文	絵画	絹本着色不動明王三大童子五部使者像	1幅	延暦寺	鎌倉	S46.6.22
	国指定	重文	絵画	光浄院客殿障壁画	25面	園城寺	桃山	S51.6.5
	国指定	重文	絵画	紙本着色近江名所図	1双	滋賀県	室町	S62.6.6

表 3-2 国指定・選定文化財一覧(3/5)

図 No.	区分	種別	名称	員数	所有者	時代	指定・選定年月日	
	国指定	重文	絵画	紙本墨画淡彩楼閣山水図	1 双	近江神宮	江戸	H4. 6. 22
	国指定	重文	絵画	絹本着色不動明王二童子像	1 幅	明王院	鎌倉	H10. 6. 30
	国指定	重文	絵画	石山寺多宝塔柱絵	4 本	石山寺	鎌倉	H12. 6. 27
	国指定	重文	彫刻	木造不動明王二童子像	3 軀	延暦寺	鎌倉	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造千手観音立像	1 軀	延暦寺	平安	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造釈迦如来立像	1 軀	延暦寺	鎌倉	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造光定大師立像	1 軀	延暦寺	南北朝	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造不動明王立像	1 軀	延暦寺	鎌倉	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造大威徳明王像	1 軀	延暦寺	鎌倉	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造金剛夜叉明王立像	1 軀	延暦寺	鎌倉	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造隆三世明王立像	1 軀	延暦寺	鎌倉	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造軍荼利夜叉明王立像	1 軀	延暦寺	鎌倉	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造四天王立像	4 軀	延暦寺	平安	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造阿弥陀如来立像	1 軀	延暦寺	鎌倉	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造慈眼大師坐像	1 軀	恵日院	江戸	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造不動明王二童子立像	3 軀	玉蓮院	鎌倉	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造阿弥陀如来立像	1 軀	乘実院	鎌倉	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造阿弥陀如来坐像	1 軀	寿量院	室町	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造不動明王坐像	1 軀	大林院	平安	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造地藏菩薩立像	1 軀	妙行院	鎌倉	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造阿弥陀如来立像	1 軀	宝光寺	鎌倉	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造十一面観音立像	1 軀	盛安寺	平安	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造阿弥陀如来坐像	1 軀	西教寺	平安	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造聖観音立像	1 軀	西教寺	平安	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造薬師如来坐像	1 軀	西教寺	鎌倉	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造地藏菩薩半跏像	1 軀	真光寺(下阪本)	鎌倉	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造釈迦如来坐像	1 軀	聖衆来迎寺	鎌倉	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造十一面観音立像	1 軀	聖衆来迎寺	平安	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造地藏菩薩立像	1 軀	聖衆来迎寺	鎌倉	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造月光・日光仏立像	2 軀	聖衆来迎寺	室町	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造千手観音立像	1 軀	園城寺	平安	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造護法善神立像	1 軀	園城寺	平安	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造黄不動尊立像	1 軀	園城寺	鎌倉	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造吉祥天立像	1 軀	園城寺	鎌倉	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造十一面観音立像	1 軀	園城寺	平安	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造聖観音立像	1 軀	乘念寺	平安	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造天命開別命坐像	1 軀	石坐神社	平安	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造伊賀采女宅子媛坐像	1 軀	石坐神社	平安	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造弘文天皇坐像	1 軀	石坐神社	平安	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造彦坐王坐像	1 軀	石坐神社	鎌倉	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造阿弥陀如来坐像	1 軀	清徳院	平安	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造釈迦如来坐像(伝安阿弥作)	1 軀	円福院	鎌倉	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造如意輪観音半跏像(本堂安置)像内納入品	1 軀	石山寺	平安	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造毘沙門天立像	1 軀	石山寺	平安	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造不動明王坐像	1 軀	石山寺	平安	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造地藏菩薩立像	1 軀	岩間山正法寺	平安	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造不動明王二童子立像	3 軀	岩間山正法寺	鎌倉	M33. 4. 7
	国指定	重文	彫刻	木造阿弥陀如来立像	1 軀	西岸寺	鎌倉	M34. 3. 27
	国指定	重文	彫刻	木造聖観音坐像	1 軀	満月寺	平安	M34. 3. 27
	国指定	重文	彫刻	木造薬師如来坐像(薬師堂安置)	1 軀	専念寺	平安	M34. 3. 27
	国指定	重文	彫刻	木造千手観音立像(観音堂安置)	1 軀	東光寺	平安	M34. 3. 27
	国指定	重文	彫刻	木造地藏菩薩立像(地藏堂安置)	1 軀	真迎寺	鎌倉	M34. 3. 27
	国指定	重文	彫刻	木造阿弥陀如来坐像	1 軀	福領寺	平安	M34. 3. 27
	国指定	重文	彫刻	木造国常立尊坐像	1 軀	地主神社	平安	M37. 2. 18
	国指定	重文	彫刻	木造男神坐像、女神坐像、僧形坐像	7 軀	地主神社	平安	M37. 2. 18
	国指定	重文	彫刻	木造千手観音不動明王毘沙門天立像(本堂安置)	3 軀	明王院	平安	M37. 2. 18
	国指定	重文	彫刻	木造仏像(寺伝聖観音立像)	1 軀	慈眼庵	平安	M37. 2. 18
	国指定	重文	彫刻	金銅観世音菩薩立像	1 軀	石山寺	奈良	M37. 2. 18
	国指定	重文	彫刻	銅造釈迦如来坐像	1 軀	石山寺	奈良	M37. 2. 18
	国指定	重文	彫刻	木造大日如来坐像(伝元多宝塔本尊)	1 軀	石山寺	平安	M37. 2. 18
	国指定	重文	彫刻	木造維摩居士坐像	1 軀	石山寺	平安	M37. 2. 18
	国指定	重文	彫刻	木造阿弥陀如来坐像(所在観音堂)	1 軀	安養寺	平安	M38. 4. 4
	国指定	重文	彫刻	木造猿田彦命坐像	1 軀	平野神社	平安	M38. 4. 4
	国指定	重文	彫刻	木造地藏菩薩坐像(所在本堂)	1 軀	正願寺	平安	M38. 4. 4
	国指定	重文	彫刻	木造仏像(寺伝弥勒菩薩立像)(所在本堂)	1 軀	若王寺	平安	M38. 4. 4
	国指定	重文	彫刻	木造薬師如来坐像	1 軀	法楽寺	平安	M38. 4. 4
	国指定	重文	彫刻	木造薬師如来坐像(薬師堂安置)	1 軀	安楽寺	平安	M38. 4. 4
	国指定	重文	彫刻	木造帝釈天立像(所在本堂)	1 軀	正法寺	平安	M38. 4. 4
	国指定	重文	彫刻	木造女神坐像	1 軀	建部大社	平安	M38. 4. 4
	国指定	重文	彫刻	銅造薬師如来立像	1 軀	聖衆来迎寺	奈良	M41. 4. 23
	国指定	重文	彫刻	木造持国天立像、増長天立像、毘沙門天立像	3 軀	石山寺	平安	M43. 8. 29
	国指定	重文	彫刻	木造慈恵大師坐像	1 軀	求法寺	鎌倉	T2. 4. 14
	国指定	重文	彫刻	木造阿梨帝母倚像(所在護法善神堂)	1 軀	園城寺	鎌倉	S3. 8. 17

表 3-2 国指定・選定文化財一覧(4/5)

図 No.	区分	種別	名称	員数	所有者	時代	指定・選定年月日	
	国指定	重文	彫刻	木造愛染明王坐像(所在正法寺)	1 軀	園城寺	平安	S3. 8. 17
	国指定	重文	彫刻	木造不動明王坐像	1 軀	園城寺	平安	S13. 8. 26
	国指定	重文	彫刻	木造智証大師坐像	1 軀	園城寺	平安	S13. 8. 26
	国指定	重文	彫刻	木造聖観音立像(横川中堂安置)	1 軀	延暦寺	平安	S16. 11. 6
	国指定	重文	彫刻	木造吉祥天立像	1 軀	延暦寺	平安	S16. 11. 6
	国指定	重文	彫刻	木造維摩居士坐像	1 軀	延暦寺	平安	S16. 11. 6
	国指定	重文	彫刻	木造慈恵大師坐像	1 軀	延暦寺	鎌倉	S16. 11. 6
	国指定	重文	彫刻	木造慈恵大師坐像	1 軀	延暦寺	鎌倉	S16. 11. 6
	国指定	重文	彫刻	木造薬師如来坐像	1 軀	延暦寺	平安	S19. 9. 5
	国指定	重文	彫刻	木造如意輪観音坐像(観音堂安置)	1 軀	園城寺	平安	S30. 6. 22
	国指定	重文	彫刻	木造如意輪観音半跏像	1 軀	石山寺	平安	S30. 6. 22
	国指定	重文	彫刻	塑造淳祐内供坐像(御影堂安置)	1 軀	石山寺	室町	S30. 6. 22
	国指定	重文	彫刻	木造四天王立像(所在釈迦堂)	2 軀	延暦寺	平安	S39. 5. 26
	国指定	重文	彫刻	木造大黒天立像	1 軀	延暦寺	鎌倉	S39. 5. 26
	国指定	重文	彫刻	木造釈迦如来及両脇侍坐像	3 軀	常信寺	平安	S51. 6. 5
	国指定	重文	彫刻	木造大日如来坐像(多宝塔安置)	1 軀	石山寺	鎌倉	H11. 6. 7
	国指定	重文	彫刻	塑造金剛蔵王立像心木	1 軀	石山寺	奈良	H16. 6. 8
	国指定	重文	彫刻	木造阿弥陀如来立像	1 軀	西勝寺	鎌倉	H17. 6. 9
	国指定	重文	彫刻	木造天王立像	1 軀	天満神社	平安	H25. 6. 19
	国指定	重文	彫刻	銅造観音菩薩立像	1 軀	真光寺(下阪本)	奈良	H26. 8. 21
	国指定	重文	彫刻	木造観音菩薩立像	1 軀	九品寺	平安	H26. 8. 21
	国指定	重文	彫刻	木造獅子狛犬	1 対	若松神社	鎌倉	H27. 9. 4
	国指定	重文	工芸品	日吉山王金銅装神輿	7 基	日吉大社	桃山・江戸	M33. 4. 7
	国指定	重文	工芸品	推朱香盆	1 枚	聖衆来迎寺	元	M33. 4. 7
	国指定	重文	工芸品	銅鐘 太平年間銘	1 口	園城寺	高麗	M33. 4. 7
	国指定	重文	工芸品	四宮祭鯉山飾毛綴	1 枚	太閤町竜門会	16 世紀	S24. 5. 30
	国指定	重文	工芸品	四宮祭月宮殿山飾毛綴	1 枚	上京町月宮会	16 世紀	S24. 5. 30
	国指定	重文	工芸品	犀角如意	1 柄	聖衆来迎寺	平安	S30. 6. 22
	国指定	重文	工芸品	梵鐘	1 口	石山寺	平安	S32. 2. 19
	国指定	重文	工芸品	梵鐘	1 口	園城寺	奈良	S32. 2. 19
	国指定	重文	工芸品	鍔銅三具足	1 具	聖衆来迎寺	明	S34. 6. 27
	国指定	重文	工芸品	石燈籠	1 基	閑蟬丸神社	鎌倉	S37. 6. 21
	国指定	重文	工芸品	石燈籠	1 基	建部大社	鎌倉	S37. 6. 21
	国指定	重文	工芸品	石燈籠	1 基	西教寺	鎌倉	S39. 1. 28
	国指定	重文	工芸品	金銀鍍水瓶	1 口	弘法寺	鎌倉	S39. 5. 26
	国指定	重文	工芸品	銅水瓶	1 口	聖衆来迎寺	鎌倉	S39. 5. 26
	国指定	重文	工芸品	尾長鳥繡縁花文錦打敷	1 枚	延暦寺	鎌倉	S39. 5. 26
	国指定	重文	工芸品	鱈口	1 口	西教寺	鎌倉	S43. 4. 25
	国指定	重文	工芸品	梵鐘	1 口	西教寺	平安	S50. 6. 12
	国指定	重文	工芸品	金銅孔雀文磬	1 面	園城寺	平安	S51. 6. 5
	国指定	重文	工芸品	山王曼荼羅舍利厨子	1 基	聖衆来迎寺	室町	H23. 6. 27
	国指定	重文	工芸品	葛川明王院御正体 附・御正体 5 面	6 面	明王院	室町	H25. 6. 19
	国指定	重文	書跡等	紙本墨書道達和尚伝道文	1 卷	延暦寺	平安	M33. 4. 7
	国指定	重文	書跡等	紙本墨書華嚴要義問答 行福筆	2 卷	延暦寺	平安	M33. 4. 7
	国指定	重文	書跡等	後土御門天皇宸翰真盛上人号	1 幅	西教寺	室町	M33. 4. 7
	国指定	重文	書跡等	仏説浄業障経	1 卷	石山寺	奈良	M33. 4. 7
	国指定	重文	書跡等	紙本墨書説一切有部俱舎論	1 卷	石山寺	奈良	M33. 4. 7
	国指定	重文	書跡等	紙本墨書行歴抄	1 卷	石山寺	鎌倉	M36. 4. 15
	国指定	重文	書跡等	紙本墨書建久年中檢田帳	2 卷	石山寺	鎌倉	M38. 4. 4
	国指定	重文	書跡等	紙本墨書山門再興文書	4 通	延暦寺	桃山	M39. 4. 14
	国指定	重文	書跡等	紙本著色園城寺境内古図	5 幅	園城寺	鎌倉	S4. 4. 6
	国指定	重文	書跡等	紙本墨書大蔵経	592 帖	園城寺	南北朝	S9. 1. 30
	国指定	重文	書跡等	紙本墨書無量義経疏	3 卷	西教寺	平安	S12. 5. 25
	国指定	重文	書跡等	注大般涅槃経卷第八	1 卷	西教寺	奈良	S19. 9. 5
	国指定	重文	書跡等	伝述一心戒文	3 帖	延暦寺	平安	S24. 5. 30
	国指定	重文	書跡等	悉曇蔵	8 帖	延暦寺	平安	S24. 5. 30
	国指定	重文	書跡等	叡山大師伝	1 卷	石山寺	鎌倉	S28. 3. 31
	国指定	重文	書跡等	法花玄賛義決	1 卷	石山寺	平安	S28. 3. 31
	国指定	重文	書跡等	不空三蔵表制集卷第三	1 卷	石山寺	平安	S28. 3. 31
	国指定	重文	書跡等	大般若経音義中卷	1 卷	石山寺	平安	S28. 3. 31
	国指定	重文	書跡等	十誦律卷第五十二	1 卷	石山寺	奈良	S28. 11. 14
	国指定	重文	書跡等	本朝文粹零本	1 卷	石山寺	鎌倉	S28. 11. 14
	国指定	重文	書跡等	法華義疏	7 卷	石山寺	平安	S28. 11. 14
	国指定	重文	書跡等	俱舎論記、俱舎論疏、俱舎論頌疏	57 卷	石山寺	平安	S28. 11. 14
	国指定	重文	書跡等	石山寺一切経	4,644 帖	石山寺	奈良～室町	S28. 11. 14
	国指定	重文	書跡等	紺紙金銀交書法華経	8 卷	延暦寺	平安	S30. 6. 22
	国指定	重文	書跡等	紺紙銀字法華経	8 卷	延暦寺	平安	S30. 6. 22
	国指定	重文	書跡等	法華経(裝飾経)	8 卷	弘法寺	平安	S39. 5. 26
	国指定	重文	書跡等	法華経	8 卷	聖衆来迎寺	平安	S39. 5. 26
	国指定	重文	書跡等	靈山院釈迦堂毎日作法	1 卷	聖衆来迎寺	平安	S40. 5. 29
	国指定	重文	書跡等	智証大師伝	1 卷	石山寺	平安	S40. 5. 29
	国指定	重文	書跡等	法華経(色紙金銀箔散)	8 帖	西教寺	平安	S52. 6. 11
	国指定	重文	書跡等	延暦寺楞嚴三昧院解	1 幅	延暦寺	平安	S54. 6. 6

表 3-2 国指定・選定文化財一覧（5/5）

図 No.	区分	種別	名称	員数	所有者	時代	指定・選定年月日	
	国指定	重文	書跡等	葛川明王院文書	4336 通	明王院	平安～江戸	H3. 6. 21
	国指定	重文	書跡等	葛川与伊香立庄相論絵図	1 巻、1 幅	明王院	鎌倉	H3. 6. 21
	国指定	重文	書跡等	石山寺校倉聖教	1,926 点	石山寺	平安～桃山	H5. 6. 10
	国指定	重文	書跡等	東寺文書（百七通）	7 巻、3 冊、94 通	滋賀県	平安～江戸	H21. 7. 10
	国指定	重文	書跡等	西河原遺跡群出土木簡	64 点	滋賀県	飛鳥～奈良	H23. 6. 27
	国指定	重文	考古資料	水晶舍利塔	1 基	実蔵坊	鎌倉	M33. 4. 7
	国指定	重文	考古資料	袈裟褌文銅鐸	1 口	石山寺	弥生	S34. 12. 18
	国指定	重文	考古資料	白磁水注	1 口	近江神宮	北宋	S53. 6. 15
	国指定	重文	考古資料	袈裟褌文銅鐸、突線袈裟褌文銅鐸、流水文銅鐸	10 口	滋賀県	弥生	S62. 6. 6
	国指定	重文	考古資料	近江新開古墳出土品		滋賀県	古墳	S62. 6. 6
	国指定	重文	考古資料	京都市法住寺殿跡土壌出土品		木下美術館	平安	H1. 6. 12
	国指定	重文	考古資料	鷗尾 附・須恵器 3 点	4 箇	大津市	白鳳	H25. 6. 19
	国指定	重文	歴史資料	園城寺尺	2 枚	園城寺	室町	S62. 6. 6
	国指定	重文	歴史資料	葛川明王院参籠札	501 枚	明王院	鎌倉～江戸	H3. 6. 21
	国指定	重文	歴史資料	難波家蹴鞠関係資料		平野神社	平安～江戸	H9. 6. 30
	国指定	重文	歴史資料	宗存版木活字	174,261 点	延暦寺	江戸	H12. 12. 4
	国指定	重文	歴史資料	大津百艘船関係資料	1,237 点	個人	桃山～明治	H30. 10. 31
N72	国指定	重要無形民俗文化財		大津祭の曳山行事		大津祭保存会		H28. 3. 2
N73	国指定	史跡		茶白山古墳・小茶白山古墳		大津市他		T10. 3. 3
N74	国指定	史跡		延暦寺境内		延暦寺		S9. 3. 13
N75	国指定	史跡		崇福寺跡		滋賀県他		S16. 1. 27
N76	国指定	史跡		南滋賀町麿寺跡		大津市他		S32. 10. 11
N77	国指定	史跡		義仲寺境内		義仲寺		S42. 11. 20
N78-81	国指定	史跡		近江国府跡 国庁跡 惣山遺跡 青江遺跡 中路遺跡		滋賀県他		S48. 3. 15
N82	国指定	史跡		日吉神社境内		日吉大社他		S48. 10. 9
N83	国指定	史跡		皇子山古墳		大津市		S49. 12. 9
N84	国指定	史跡		春日山古墳群		滋賀県		S49. 12. 23
N85	国指定	史跡		衣川麿寺跡		大津市		S52. 3. 8
N86	国指定	史跡		堂ノ上遺跡		滋賀県他		S53. 3. 14
N87	国指定	史跡		近江大津宮錦織遺跡		滋賀県他		S54. 7. 2
N88-91	国指定	史跡		琵琶湖疏水		京都市		H8. 6. 19
N92	国指定	史跡		穴大麿寺跡		大津市他		H9. 9. 11
N93, N94	国指定	史跡		瀬田丘陵生産遺跡群		滋賀県他		H17. 7. 14
N95	国指定	史跡・名勝		円満院庭園		大岡寺		S9. 12. 28
N96	国指定	史跡・名勝		光浄院庭園		園城寺		S9. 12. 28
N97	国指定	史跡・名勝		善法院庭園		園城寺		S9. 12. 28
N98	国指定	名勝		居初氏庭園		個人		S56. 6. 11
N99-N108	国指定	名勝		延暦寺坂本里坊庭園				H10. 12. 8
N109	国指定	天然記念物		石山寺瓦灰石		石山寺		T11. 3. 8
N110	国指定	天然記念物		比叡山鳥類繁殖地		延暦寺		S5. 10. 3
N111	国選定	重要伝統的建造物群保存地区		大津市坂本伝統的建造物群保存地区				H9. 10. 31
N112	国選定	選定保存技術		文化財石垣保存技術		個人		H24. 10. 4

表 3-3 県指定・選択文化財一覧（1/2）

図 No.	区分	種別	名称	員数	所有者	時代	指定年月日	
P1	県指定	有形文化財	建造物	石坐神社本殿	1 棟	石坐神社	鎌倉	S32. 8. 26
P2	県指定	有形文化財	建造物	両社神社本殿	1 棟	両社神社	江戸	S34. 2. 10
P3	県指定	有形文化財	建造物	酒井神社本殿	1 棟	酒井神社	江戸	S34. 2. 10
P4	県指定	有形文化財	建造物	園城寺唐院長日護摩堂	1 棟	園城寺	江戸	S35. 1. 20
P5	県指定	有形文化財	建造物	日吉大社鳥居(山王鳥居)	1 基	日吉大社	昭和	S40. 8. 9
P6	県指定	有形文化財	建造物	水観寺本堂	1 棟	園城寺	江戸	S59. 3. 30
P7-P10	県指定	有形文化財	建造物	園城寺南院礼所伽藍 観音堂、鐘楼、百体堂、観月舞台	4 棟	園城寺	江戸	S61. 3. 28
P11	県指定	有形文化財	建造物	居初家天然図画亭	1 棟	個人	江戸	H5. 3. 31
P12	県指定	有形文化財	建造物	求法寺走井元三大師堂	1 棟	求法寺	江戸	H10. 6. 19
P13	県指定	有形文化財	建造物	石山寺毘沙門堂	1 棟	石山寺	江戸	H19. 6. 1
P14	県指定	有形文化財	建造物	草津川桐生堰堤（オランダ堰堤）	2 所	滋賀県	明治	H23. 3. 24
	県指定	有形文化財	絵画	絹本着色恵心僧都像	1 幅	聖衆来迎寺	鎌倉	S32. 8. 26
	県指定	有形文化財	絵画	絹本着色熊野曼荼羅	1 幅	西教寺	南北朝	S47. 4. 1
	県指定	有形文化財	絵画	絹本着色山王本地仏曼荼羅図	1 幅	延暦寺	鎌倉	S56. 4. 24
	県指定	有形文化財	絵画	絹本着色真盛上人像	1 幅	西教寺	室町	H2. 3. 31
	県指定	有形文化財	絵画	絹本着色智証大師像	1 幅	園城寺	室町	H2. 3. 31
	県指定	有形文化財	絵画	絹本着色阿弥陀二十五菩薩来迎図	1 幅	弘法寺	鎌倉	H5. 3. 31
	県指定	有形文化財	絵画	紙本墨画叡山図 曾我蕭白筆	1 幅	滋賀県	江戸	H23. 3. 24
	県指定	有形文化財	絵画	絹本着色慈恵大師像	1 幅	延暦寺	鎌倉	H25. 3. 19
	県指定	有形文化財	絵画	絹本着色春日曼荼羅図	1 幅	石山寺	南北朝	H27. 3. 24
	県指定	有形文化財	絵画	絹本着色阿弥陀三尊来迎図	1 幅	光明寺	鎌倉	H27. 12. 18
	県指定	有形文化財	絵画	紙本墨画楼閣山水図 高田敬輔筆 紙本墨画琴棋書画図 高田敬輔筆	8 面	滋賀県	江戸	H29. 3. 23
	県指定	有形文化財	絵画	絹本着色弘法大師像	1 幅	石山寺	鎌倉	H29. 11. 24
	県指定	有形文化財	絵画	絹本着色円観像	1 幅	西教寺	南北朝	H30. 10. 17
	県指定	有形文化財	彫刻	木造聖徳太子立像	1 軀	国分聖徳太子会	鎌倉	S41. 4. 7

表 3-3 県指定・選択文化財一覧(2/2)

図 No.	区分	種別	名称	員数	所有者	時代	指定年月日	
	県指定	有形文化財	彫刻	木造大黒天立像	1 軀	聖衆来迎寺	南北朝	S41. 7. 4
	県指定	有形文化財	彫刻	木造薬師如来坐像(行者堂安置)	1 軀	須賀神社	平安	S56. 4. 24
	県指定	有形文化財	彫刻	木造阿弥陀如来立像(裸形)	1 軀	浄光寺	鎌倉	S57. 3. 31
	県指定	有形文化財	彫刻	木造菩薩形坐像	1 軀	寂光寺	鎌倉	H1. 3. 31
	県指定	有形文化財	彫刻	木造如意輪観音半跏像	1 軀	法輪院	平安	H15. 4. 16
	県指定	有形文化財	彫刻	木造阿弥陀如来坐像	1 軀	石山寺	平安	H16. 4. 16
	県指定	有形文化財	彫刻	木造阿弥陀如来及両脇侍立像	3 軀	西教寺	鎌倉	H25. 3. 19
	県指定	有形文化財	彫刻	木造金剛力士立像	2 軀	園城寺	室町	H30. 10. 17
	県指定	有形文化財	工芸品	梵鐘	1 口	園城寺	桃山	S34. 2. 10
	県指定	有形文化財	工芸品	梵鐘	1 口	明王院	南北朝	S34. 2. 10
	県指定	有形文化財	工芸品	木造厨子	1 基	延暦寺	室町	S38. 8. 21
	県指定	有形文化財	工芸品	金銅八角形釣燈籠	1 基	地主神社	室町	S40. 8. 9
	県指定	有形文化財	工芸品	梵鐘	1 口	正源寺	鎌倉	S57. 3. 31
	県指定	有形文化財	工芸品	鱒口(所在水観寺)	1 口	園城寺	鎌倉	S59. 3. 30
	県指定	有形文化財	工芸品	信楽 矢筈口水指	1 口	滋賀県	桃山	H2. 3. 31
	県指定	有形文化財	工芸品	金銅独鈷杆	1 口	延暦寺	平安	H9. 3. 31
	県指定	有形文化財	工芸品	銅独鈷杆	1 口	聖衆来迎寺	平安	H9. 3. 31
	県指定	有形文化財	工芸品	銅鉢	1 口	明王院	南北朝	H18. 3. 17
	県指定	有形文化財	工芸品	花卉鳥獸文様刺繍打敷	2 枚	西教寺	明	H26. 1. 17
	県指定	有形文化財	書跡等	近江国絵図	1,015 枚	滋賀県	江戸～明治	S42. 4. 24
	県指定	有形文化財	書跡等	不空羂索神变真言経巻第三	1 巻	聖衆来迎寺	奈良	S62. 3. 30
	県指定	有形文化財	書跡等	注大般若涅槃経巻第十	1 巻	聖衆来迎寺	奈良	S62. 3. 30
	県指定	有形文化財	書跡等	妙法蓮華経普門品第二十五	1 巻	聖衆来迎寺	奈良	S62. 3. 30
	県指定	有形文化財	書跡等	往生要集	6 冊	延暦寺	鎌倉～南北朝	H9. 3. 31
	県指定	有形文化財	書跡等	大般若波羅蜜多経(崇永版)	600 帖	樹下神社	南北朝	H12. 3. 10
	県指定	有形文化財	書跡等	比良庄絵図	1 鋪	北比良区	室町	H12. 3. 10
	県指定	有形文化財	書跡等	鴨田遺跡出土巡礼	54 点	滋賀県	室町	H17. 4. 20
	県指定	有形文化財	書跡等	東光寺遺跡出土呪符木簡	2 点	滋賀県	平安	H17. 4. 20
	県指定	有形文化財	書跡等	近江輿地志略	94 冊	滋賀県	江戸	H18. 3. 17
	県指定	有形文化財	書跡等	近江輿地志略	6 冊	浄光寺	江戸	H18. 3. 17
	県指定	有形文化財	書跡等	東寺文書(滋賀県所有本)	72 点	滋賀県	江戸	H19. 6. 1
	県指定	有形文化財	考古資料	松原内湖遺跡出土篋状木製品	2 点	滋賀県	縄文	H15. 4. 16
	県指定	有形文化財	考古資料	史跡大中の湖南遺跡出土木製品	366 点	滋賀県	弥生	H15. 4. 16
	県指定	有形文化財	考古資料	烏丸崎遺跡出土木偶	1 点	滋賀県	弥生	H15. 4. 16
	県指定	有形文化財	考古資料	湯ノ部遺跡出土木偶	4 点	滋賀県	弥生	H15. 4. 16
	県指定	有形文化財	考古資料	供養塚古墳出土形象埴輪	142 点	滋賀県	古墳	H16. 4. 16
	県指定	有形文化財	考古資料	鍛冶屋敷遺跡出土遺物	33 点	滋賀県	奈良	H19. 6. 1
	県指定	有形文化財	考古資料	相谷熊原遺跡出土品 土偶、土器、石器	1点, 364点, 170点	滋賀県	縄文	H27. 12. 18
	県指定	有形文化財	歴史資料	西国三十三所巡礼札	9 枚	石山寺	室町～江戸	H3. 3. 30
	県指定	有形文化財	歴史資料	大津事件関係資料	99 点	滋賀県	明治	H16. 4. 16
	県指定	有形文化財	歴史資料	滋賀県行政文書	9,068 冊	滋賀県	明治～昭和	H25. 3. 19
P15	県指定	無形文化財		木工芸		個人		H16. 4. 16
P16	県指定	無形文化財		青磁		個人		H25. 3. 19
P17	県指定	有形民俗文化財		参籠札	58 本	明王院	鎌倉～桃山	S40. 8. 9
P18	県指定	有形民俗文化財		貫井の木地屋用具と製品	25 点	滋賀県	江戸～昭和	S59. 3. 30
P19	県指定	有形民俗文化財		八日市の柄屋用具及び製品	137 点	滋賀県	明治～昭和	S61. 3. 28
	県指定	無形民俗文化財(選択)		栗原の八朔踊りと水分神社の祭り行事		栗原区		H12. 3. 10
	県指定	無形民俗文化財(選択)		栗原の太鼓念仏		大念仏講		H10. 6. 19
	県指定	無形民俗文化財(選択)		真野の六齋念仏		中村会 沢六齋念仏 保存会		H10. 6. 19
	県指定	無形民俗文化財(選択)		大津祭		大津祭保存会		S32. 12. 19
	県指定	無形民俗文化財(選択)		大江の鉾振り		若松神社鉾 保存会		H16. 4. 16
P20	県指定	史跡		禾津頓宮跡		滋賀県		H21. 11. 25
P21	県指定	名勝		盛安寺庭園		盛安寺		S56. 4. 24
P22	県指定	名勝		聖衆来迎寺庭園		聖衆来迎寺		S57. 3. 31
P23	県指定	名勝		唐崎(唐崎神社境内)		日吉大社		H10. 6. 19
P24	県指定	名勝		旧正蔵坊庭園	919.01 m ²	個人		H30. 10. 17

表 3-4 市指定文化財一覧(1/3)

図 No.	区分	種別	名称	員数	所有者	時代	指定年月日	
C1	市指定	有形文化財	建造物	佐久奈度神社御旅所社殿	1 棟	佐久奈度神社	鎌倉	S40. 5. 6
C2	市指定	有形文化財	建造物	石造浮彫宝塔	1 基	安楽寺	鎌倉	S40. 5. 6
C3	市指定	有形文化財	建造物	八幡神社蔵欄間	3 枚	八幡神社	南北朝	S46. 8. 1
C4	市指定	有形文化財	建造物	八幡神社蔵臺段	3 枚	八幡神社	南北朝	S46. 8. 1
C5	市指定	有形文化財	建造物	長等神社楼門	1 棟	長等神社	明治	S47. 7. 1
C6	市指定	有形文化財	建造物	石造宝篋印塔	1 基	浄土寺	鎌倉	S50. 1. 4
C7	市指定	有形文化財	建造物	若宮八幡神社表門	1 棟	若宮八幡神社	江戸	S53. 2. 1
C8	市指定	有形文化財	建造物	日吉大社摂社大物忌神社本殿	1 棟	日吉大社	江戸	S60. 5. 15
C9-C11	市指定	有形文化財	建造物	園城寺南院礼所伽藍 絵馬堂、手水舎、地藏堂	3 棟	園城寺	江戸・明治	S63. 11. 11
C12	市指定	有形文化財	建造物	西教寺鐘楼	1 棟	西教寺	江戸	H2. 2. 1
C13-C15	市指定	有形文化財	建造物	旧竹林院 茶室(小間)、茶室(広間)、四阿	3 棟	大津市	大正	H5. 3. 15

表 3-4 市指定文化財一覧(2/3)

図 No.	区分	種別	名称	員数	所有者	時代	指定年月日
C16	市指定	有形文化財 建造物	盛安寺本堂	1棟	盛安寺	江戸	H5.12.15
C17	市指定	有形文化財 建造物	近松寺本堂	1棟	園城寺	江戸	H7.4.17
C18-C23	市指定	有形文化財 建造物	園城寺護法社 護法善神堂、唐門、表門、石造橋、本地堂、預坊表門及び門番所	6棟、1基	園城寺	江戸	H10.10.1
C24	市指定	有形文化財 建造物	旧琵琶湖ホテル	1棟	大津市	昭和	H12.9.18
C25-C26	市指定	有形文化財 建造物	旧岡本家住宅、岡本家住宅	4棟	大津市、個人	江戸	H17.3.15
C27	市指定	有形文化財 建造物	石造宝塔(北塔)	1基	樹下神社	南北朝	H23.3.15
C28	市指定	有形文化財 建造物	石造宝塔(南塔)	1基	樹下神社	鎌倉	H23.3.15
C29	市指定	有形文化財 建造物	石造宝塔(北塔)	1基	天皇神社	鎌倉	H23.3.15
C30	市指定	有形文化財 建造物	石造宝塔(南塔)	1基	天皇神社	鎌倉	H23.3.15
C31	市指定	有形文化財 建造物	石造宝塔	1基	小野神社	南北朝	H23.3.15
	市指定	有形文化財 絵画	紙本着色花卉図(襖貼付)	8面	盛安寺	江戸	S40.5.6
	市指定	有形文化財 絵画	紙本墨画四条河原納涼図稿本	1幅	円満院	江戸	S40.5.6
	市指定	有形文化財 絵画	紙本墨画幽居図	8面	園城寺	江戸	S47.7.1
	市指定	有形文化財 絵画	紙本墨画山水図	7面	園城寺	江戸	S47.7.1
	市指定	有形文化財 絵画	絹本着色山王垂迹曼荼羅図	1幅	大津市	鎌倉	S52.2.1
	市指定	有形文化財 絵画	金地著色柚子・柿二猿図	6曲1双	西教寺	桃山	S52.2.1
	市指定	有形文化財 絵画	金地著色杉木立図(時雨屏風)	6曲1双	西教寺	桃山	S52.2.1
	市指定	有形文化財 絵画	絹本着色十六羅漢図	16幅	新知恩院	南北朝	S54.3.1
	市指定	有形文化財 絵画	紙本着色芭蕉翁絵詞伝	3巻	義仲寺	江戸	S54.3.1
	市指定	有形文化財 絵画	絹本着色矢嶋加兵衛尉像	1幅	西勝寺	桃山	S56.1.16
	市指定	有形文化財 絵画	絹本着色釈迦三尊像	1幅	善通寺	高麗	S59.4.2
	市指定	有形文化財 絵画	板繪著色武者騎馬像	1面	佐久奈度神社	江戸	S59.4.2
	市指定	有形文化財 絵画	紙本着色蒲生忠郷像	1幅	雲住寺	江戸	H3.2.1
	市指定	有形文化財 絵画	板繪著色繫馬図	1面	石山寺	江戸	H4.2.1
	市指定	有形文化財 絵画	絹本着色不動明王像	1幅	個人	鎌倉	H10.4.15
	市指定	有形文化財 絵画	紙本着色日吉山王社古図	1幅	延暦寺	室町	H14.3.15
	市指定	有形文化財 絵画	紙本着色近江名所図	6曲1双	大津市	江戸	H16.4.1
	市指定	有形文化財 絵画	絹本着色紫式部像 伝狩野孝信筆	1幅	石山寺	桃山	H20.4.1
	市指定	有形文化財 絵画	絹本着色日吉山王本地仏曼荼羅図	1幅	坂本町講堂	室町	H24.5.1
	市指定	有形文化財 絵画	絹本着色日吉山王本地仏曼荼羅図	1幅	坂本町講堂	南北朝	H24.5.1
	市指定	有形文化財 絵画	絹本着色日吉山王垂迹神曼荼羅図 附・絵筒	1幅	坂本町講堂	南北朝	H24.5.1
	市指定	有形文化財 絵画	絹本着色日吉山王垂迹神曼荼羅図	1幅	坂本町講堂	室町	H24.5.1
	市指定	有形文化財 彫刻	石造弥勒仏坐像	1軀	延暦寺	鎌倉	S40.5.6
	市指定	有形文化財 彫刻	木造地藏菩薩立像	1軀	常信寺	鎌倉	S40.5.6
	市指定	有形文化財 彫刻	木造男神・女神坐像	2軀	貴船御霊神社	平安	S46.8.1
	市指定	有形文化財 彫刻	木造地藏菩薩立像	1軀	盛安寺	室町	S48.11.1
	市指定	有形文化財 彫刻	木造男神・女神坐像	2軀	法光寺	室町	S51.3.15
	市指定	有形文化財 彫刻	木造阿弥陀如来坐像	1軀	真光寺(牧)	鎌倉～南北朝	S53.2.1
	市指定	有形文化財 彫刻	木造薬師如来坐像	1軀	岩間山正法寺	平安	S54.3.1
	市指定	有形文化財 彫刻	木造十一面観音立像	1軀	岩間山正法寺	平安	S54.3.1
	市指定	有形文化財 彫刻	木造阿弥陀如来立像	1軀	新福寺	平安	S54.3.1
	市指定	有形文化財 彫刻	木造仮面	3面	酒井神社	室町	S56.1.16
	市指定	有形文化財 彫刻	藤尾磨崖仏	15軀	寂光寺	鎌倉	S56.1.16
	市指定	有形文化財 彫刻	木造阿弥陀如来坐像	1軀	華開寺	平安	S59.4.2
	市指定	有形文化財 彫刻	木造虚空蔵菩薩立像	1軀	華開寺	平安	S59.4.2
	市指定	有形文化財 彫刻	石造阿弥陀如来坐像(志賀の大仏)	1軀	大仏講	鎌倉	S63.11.11
	市指定	有形文化財 彫刻	石造阿弥陀如来坐像	1軀	西教寺(山中)	鎌倉	S63.11.11
	市指定	有形文化財 彫刻	木造聖観音立像	1軀	正法寺	平安	H2.2.1
	市指定	有形文化財 彫刻	木造阿弥陀如来坐像	1軀	龍音寺	平安	H4.2.1
	市指定	有形文化財 彫刻	銅造千手観音立像	1軀	園城寺	平安	H7.4.17
	市指定	有形文化財 彫刻	木造阿弥陀如来立像	1軀	西教寺	鎌倉	H10.4.15
	市指定	有形文化財 彫刻	木造菩薩立像	1軀	北保町自治会	平安	H10.10.1
	市指定	有形文化財 彫刻	鉄造如来坐像	1軀	北保町自治会	平安	H10.10.1
	市指定	有形文化財 彫刻	木造狛犬	1対	神田神社	鎌倉	H16.4.1
	市指定	有形文化財 彫刻	木造観音菩薩立像	1軀	松禪院	平安	H21.2.16
	市指定	有形文化財 彫刻	木造地藏菩薩立像	1軀	松禪院	平安	H21.2.16
	市指定	有形文化財 彫刻	木造大日如来坐像	1軀	若王寺	平安	H22.3.15
	市指定	有形文化財 彫刻	木造釈迦涅槃像	1軀	新知恩院	鎌倉	H29.3.15
	市指定	有形文化財 彫刻	木造地藏菩薩立像	1軀	攝政院	平安	R1.5.15
	市指定	有形文化財 工芸品	銅造孔雀文磬	2面	園城寺	鎌倉・南北朝	S40.5.6
	市指定	有形文化財 工芸品	木造狸面	1面	鍛冶屋町自治会	桃山	S48.11.1
	市指定	有形文化財 工芸品	懸仏	2面	岩間山正法寺	鎌倉	S53.2.1
	市指定	有形文化財 工芸品	梵鐘	1口	正休寺	室町	S54.3.1
	市指定	有形文化財 工芸品	銅製雲版	1面	聖衆来迎寺	桃山	S59.4.2
	市指定	有形文化財 工芸品	膳所焼茶入・水指	28口	膳所焼美術館	桃山～江戸	H5.3.15
	市指定	有形文化財 工芸品	香盤	1基	明王院	室町	H17.3.15
	市指定	有形文化財 工芸品	金銅装神輿	1基	木戸共有者会	江戸	H19.2.15
	市指定	有形文化財 工芸品	懸仏	9点	水分神社	鎌倉～室町	H19.2.15
	市指定	有形文化財 書跡等	居初家中世文書	21通	大津市	室町～桃山	S48.11.1
	市指定	有形文化財 書跡等	大津町古絵図	1幅	個人	江戸	S50.1.4
	市指定	有形文化財 書跡等	堅田本福寺中世記録	3帖、1巻	本福寺	室町	S51.3.15
	市指定	有形文化財 書跡等	大津船大工・貸船屋関係文書	147点	個人	江戸～明治	S53.2.1

表 3-4 市指定文化財一覧(3/3)

図 No.	区分	種別	名称	員数	所有者	時代	指定年月日	
	市指定	有形文化財	書跡等	今堅田船大工仲間文書	2通	今堅田船大工仲間	桃山～江戸	S56.1.16
	市指定	有形文化財	書跡等	膳所総絵図	1面	個人	江戸	S59.4.2
	市指定	有形文化財	書跡等	和田家文書	3通	個人	室町	S63.11.11
	市指定	有形文化財	書跡等	八所神社文書	13点	八所神社	鎌倉～江戸	H5.3.15
	市指定	有形文化財	書跡等	和運今宿自治会中世文書	2通	和運今宿自治会	室町	H21.2.16
	市指定	有形文化財	書跡等	永田家中世文書	3通	個人	室町	H28.3.15
	市指定	有形文化財	考古資料	明治29年琵琶湖洪水石標	1基	大津市	明治	S40.5.6
	市指定	有形文化財	考古資料	大津京関係遺跡出土品	一括	近江神宮	飛鳥～平安	S40.5.6
	市指定	有形文化財	考古資料	石居庵寺出土品	64点	個人	奈良～平安	S60.5.15
	市指定	有形文化財	考古資料	園城寺境内出土瓦	4点	園城寺	白鳳	H3.2.1
	市指定	有形文化財	考古資料	石山寺知足庵コレクション	26点、1冊	石山寺	白鳳～江戸	H14.3.15
	市指定	有形文化財	考古資料	真野古墳出土品	一括	大津市	古墳	H19.2.15
	市指定	有形文化財	考古資料	上仰木遺跡出土品	7点	大津市	北宋・平安	H22.3.15
	市指定	有形文化財	考古資料	石山園分遺跡(森瓦窯)出土瓦	25点	大津市	白鳳	H29.3.15
	市指定	有形文化財	歴史資料	紙本著色法光寺境内絵図	1幅	法光寺	江戸	H3.2.1
	市指定	有形文化財	歴史資料	永井家大津事件関係資料	3点	個人	明治	H4.2.1
	市指定	有形文化財	歴史資料	瀬田国民学校絵日記 昭和十九年五年習組	1件	大津市	昭和	H28.3.15
	市指定	有形文化財	歴史資料	津田三蔵関係資料 附・町井家資料80点	294点	大津市	江戸～明治	H30.4.1
	市指定	有形文化財	歴史資料	文化元年南庄村出土龍骨関係資料	絵画3点、 文書28点	個人	江戸～昭和	R1.5.15
C33	市指定	有形民俗文化財	石造小関越道標	1基	大津市	江戸	S50.1.4	
C34	市指定	有形民俗文化財	小舟入の常夜灯	1基	大津市	江戸	S53.2.1	
C35	市指定	有形民俗文化財	大津算盤製作道具	1括	個人	江戸	S54.3.1	
C36-C50	市指定	有形民俗文化財	大津祭曳山 附・布袋ねりもの、附・神楽山懸装品・からくり人形、附・神輿ねりもの				S56.1.16	
C51	市指定	有形民俗文化財	出島の灯台	1基	今堅田自治会	明治	H3.2.1	
C52	市指定	有形民俗文化財	四宮祭礼牽山永代伝記	8点	大津祭曳山連盟	江戸～昭和	H5.3.15	
C53	市指定	無形民俗文化財	山王まつり				S40.5.6	
C54	市指定	無形民俗文化財	おこぼまつり				S40.5.6	
C55	市指定	無形民俗文化財	山中町のお弓行事				S59.4.2	
C56	市指定	無形民俗文化財	仰木太鼓		仰木太鼓保存会		H3.2.1	
C57	市指定	無形民俗文化財	大津絵踊り		大津絵踊り保存会		H10.10.1	
C58	市指定	史跡	竜ヶ岡俳人墓地		義仲寺		S40.5.6	
C59	市指定	史跡	石山貝塚		大津市		S40.5.6	
C60	市指定	史跡	阿弥陀三尊不動明王磨崖仏		東方寺	鎌倉	S40.5.6	
C61	市指定	史跡	石居庵寺跡		個人		S46.8.1	
C62	市指定	史跡	穴太衆積みの石垣		延暦寺他	江戸	S47.7.1	
C63	市指定	史跡	国分大塚古墳	1基	大津市		S51.3.15	
C64	市指定	史跡	西羅一号古墳	1基	大津市		S52.2.1	
C65	市指定	史跡	唐崎(唐崎神社境内地)		日吉大社		S56.1.16	
C66	市指定	史跡	オランダ堰堤	1基	滋賀県	明治	S63.11.11	
C67	市指定	史跡	今井兼平の墓		大津市		H18.3.15	
C68	市指定	名勝	蘆花浅水荘庭園		記恩寺	大正	S40.5.6	
C69	市指定	天然記念物	犬塚の樺	1株	本願寺近松別院		S40.5.6	
C70	市指定	天然記念物	華階寺のいちよう	2株	大津市		S50.1.4	
C71	市指定	天然記念物	園城寺天狗杉	1株	園城寺		S51.3.15	
C72	市指定	天然記念物	和田神社のいちよう	1株	和田神社		S53.2.1	

表 3-5 国登録文化財一覧(1/3)

図 No.	区分	種別	名称	員数	所有者	時代	登録年月日	
R1	国登録	有形文化財	建造物	比叡山鉄道ケーブル坂本駅舎	1棟	比叡山鉄道株式会社	昭和2年頃	H9.7.15
R2	国登録	有形文化財	建造物	比叡山鉄道ケーブル延暦寺駅舎	1棟	比叡山鉄道株式会社	昭和2年	H9.7.15
R3	国登録	有形文化財	建造物	本家鶴毘そば主屋	1棟	個人	明治20年頃	H9.9.3
R4	国登録	有形文化財	建造物	近江神宮本殿	1棟	近江神宮	昭和15年	H10.10.9
R5	国登録	有形文化財	建造物	近江神宮祝詞舎	1棟	近江神宮	昭和15年	H10.10.9
R6	国登録	有形文化財	建造物	近江神宮渡廊	1棟	近江神宮	昭和15年	H10.10.9
R7	国登録	有形文化財	建造物	近江神宮中門	1棟	近江神宮	昭和15年	H10.10.9
R8	国登録	有形文化財	建造物	近江神宮翼廊(北部)	1棟	近江神宮	昭和15年	H10.10.9
R9	国登録	有形文化財	建造物	近江神宮翼廊(南部)	1棟	近江神宮	昭和15年	H10.10.9
R10	国登録	有形文化財	建造物	近江神宮後門	1棟	近江神宮	昭和15年	H10.10.9
R11	国登録	有形文化財	建造物	近江神宮神庫	1棟	近江神宮	昭和15年	H10.10.9
R12	国登録	有形文化財	建造物	近江神宮透塀(北部)	1棟	近江神宮	昭和15年	H10.10.9
R13	国登録	有形文化財	建造物	近江神宮透塀(南部)	1棟	近江神宮	昭和15年	H10.10.9
R14	国登録	有形文化財	建造物	近江神宮登廊	1棟	近江神宮	昭和15年	H10.10.9
R15	国登録	有形文化財	建造物	近江神宮内拝殿	1棟	近江神宮	昭和15年	H10.10.9
R16	国登録	有形文化財	建造物	近江神宮内院廻廊(北部)	1棟	近江神宮	昭和15年	H10.10.9
R17	国登録	有形文化財	建造物	近江神宮内院廻廊(南部)	1棟	近江神宮	昭和15年	H10.10.9
R18	国登録	有形文化財	建造物	近江神宮外拝殿	1棟	近江神宮	昭和15年	H10.10.9
R19	国登録	有形文化財	建造物	近江神宮神符授与所	1棟	近江神宮	昭和19年	H10.10.9
R20	国登録	有形文化財	建造物	近江神宮宿衛舎	1棟	近江神宮	昭和19年	H10.10.9
R21	国登録	有形文化財	建造物	近江神宮外廻廊(北部)	1棟	近江神宮	昭和19年	H10.10.9

表 3-5 国登録文化財一覧(2/3)

図 No.	区分	種別	名称	員数	所有者	時代	登録年月日	
R22	国登録	有形文化財	建造物	近江神宮外廻廊(南部)	1棟	近江神宮	昭和19年	H10.10.9
R23	国登録	有形文化財	建造物	近江神宮外透塀(南部)	1棟	近江神宮	昭和19年	H10.10.9
R24	国登録	有形文化財	建造物	近江神宮北神門	1棟	近江神宮	昭和19年	H10.10.9
R25	国登録	有形文化財	建造物	近江神宮外透塀(北部)	1棟	近江神宮	昭和19年	H10.10.9
R26	国登録	有形文化財	建造物	近江神宮神楽殿廻廊	1棟	近江神宮	昭和19年	H10.10.9
R27	国登録	有形文化財	建造物	近江神宮神楽殿	1棟	近江神宮	昭和19年	H10.10.9
R28	国登録	有形文化財	建造物	近江神宮神饌所	1棟	近江神宮	昭和15年	H10.10.9
R29	国登録	有形文化財	建造物	近江神宮神饌所登廊	1棟	近江神宮	昭和19年	H10.10.9
R30	国登録	有形文化財	建造物	近江神宮参集所	1棟	近江神宮	昭和19年	H10.10.9
R31	国登録	有形文化財	建造物	近江神宮参集所登廊	1棟	近江神宮	昭和19年	H10.10.9
R32	国登録	有形文化財	建造物	近江神宮参集所玄関	1棟	近江神宮	昭和19年	H10.10.9
R33	国登録	有形文化財	建造物	近江神宮社務所Ⅰ	1棟	近江神宮	昭和15年	H10.10.9
R34	国登録	有形文化財	建造物	近江神宮社務所Ⅱ	1棟	近江神宮	昭和15年	H10.10.9
R35	国登録	有形文化財	建造物	近江神宮勅使玄関	1棟	近江神宮	昭和15年	H10.10.9
R36	国登録	有形文化財	建造物	近江神宮齋館	1棟	近江神宮	昭和15年	H10.10.9
R37	国登録	有形文化財	建造物	近江神宮齋館玄関	1棟	近江神宮	昭和19年	H10.10.9
R38	国登録	有形文化財	建造物	近江神宮自動車清祓所(旧大津裁判所本館車寄)	1棟	近江神宮	明治23年	H10.10.9
R39	国登録	有形文化財	建造物	近江神宮参拝者休憩所	1棟	近江神宮	昭和19年	H10.10.9
R40	国登録	有形文化財	建造物	近江神宮手水舎	1棟	近江神宮	昭和15年	H10.10.9
R41	国登録	有形文化財	建造物	近江神宮第一鳥居	1基	近江神宮	昭和19年	H10.10.9
R42	国登録	有形文化財	建造物	近江神宮第二鳥居	1基	近江神宮	昭和15年	H10.10.9
R43	国登録	有形文化財	建造物	近江神宮脇鳥居	1基	近江神宮	昭和15年	H10.10.9
R44	国登録	有形文化財	建造物	日本基督教団堅田教会	1棟	畿北基督教団	昭和5年	H11.2.17
R45	国登録	有形文化財	建造物	日本基督教団堅田教会塀	1基	畿北基督教団	昭和5年	H11.2.17
R46	国登録	有形文化財	建造物	海門山満月寺浮御堂	1棟	宗教学法人満月寺	昭和12年	H12.4.28
R47	国登録	有形文化財	建造物	海門山満月寺観音堂	1棟	宗教学法人満月寺	明和3年	H12.4.28
R48	国登録	有形文化財	建造物	海門山満月寺客殿	1棟	宗教学法人満月寺	宝暦4年	H12.4.28
R49	国登録	有形文化財	建造物	海門山満月寺山門	1棟	宗教学法人満月寺	文化9年	H12.4.28
R50	国登録	有形文化財	建造物	海門山満月寺茶室(玉鈎亭)	1棟	宗教学法人満月寺	昭和12年	H12.4.28
R51	国登録	有形文化財	建造物	延暦寺大書院	1棟	宗教学法人延暦寺	大正8年頃	H13.8.28
R52	国登録	有形文化財	建造物	延暦寺大書院庭門	1棟	宗教学法人延暦寺	大正8年頃	H13.8.28
R53	国登録	有形文化財	建造物	西教寺御廟	1棟	宗教学法人西教寺	天保13年	H13.8.28
R54	国登録	有形文化財	建造物	西教寺客殿通用門	1棟	宗教学法人西教寺	大正期	H13.8.28
R55	国登録	有形文化財	建造物	西教寺書院	1棟	宗教学法人西教寺	大正5年	H13.8.28
R56	国登録	有形文化財	建造物	西教寺観瀾亭	1棟	宗教学法人西教寺	明治後期	H13.8.28
R57	国登録	有形文化財	建造物	西教寺新座敷	1棟	宗教学法人西教寺	昭和初期	H13.8.28
R58	国登録	有形文化財	建造物	西教寺浴室	1棟	宗教学法人西教寺	昭和6年	H13.8.28
R59	国登録	有形文化財	建造物	西教寺内司課客殿	1棟	宗教学法人西教寺	昭和5年頃	H13.8.28
R60	国登録	有形文化財	建造物	西教寺内司課庫裏	1棟	宗教学法人西教寺	昭和5年頃	H13.8.28
R61	国登録	有形文化財	建造物	西教寺内司課渡廊下	1棟	宗教学法人西教寺	昭和5年頃	H13.8.28
R62	国登録	有形文化財	建造物	西教寺内司課蔵	1棟	宗教学法人西教寺	昭和初期	H13.8.28
R63	国登録	有形文化財	建造物	西教寺灌頂蔵	1棟	宗教学法人西教寺	昭和初期	H13.8.28
R64	国登録	有形文化財	建造物	西教寺正教蔵	1棟	宗教学法人西教寺	明治12年	H13.8.28
R65	国登録	有形文化財	建造物	西教寺水屋	1棟	宗教学法人西教寺	昭和19年	H13.8.28
R66	国登録	有形文化財	建造物	西教寺納骨堂	1棟	宗教学法人西教寺	大正6年頃	H13.8.28
R67	国登録	有形文化財	建造物	西教寺宗祖大師殿	1棟	宗教学法人西教寺	明治27年	H13.8.28
R68	国登録	有形文化財	建造物	西教寺宗祖大師殿唐門	1棟	宗教学法人西教寺	大正6年	H13.8.28
R69	国登録	有形文化財	建造物	西教寺宗祖大師殿通用門	1棟	宗教学法人西教寺	大正6年	H13.8.28
R70	国登録	有形文化財	建造物	西教寺宗祖大師殿水屋	1棟	宗教学法人西教寺	大正6年頃	H13.8.28
R71	国登録	有形文化財	建造物	實成坊門	1棟	宗教学法人実成坊	江戸末期	H13.10.12
R72	国登録	有形文化財	建造物	禪林坊門	1棟	宗教学法人禅林坊	江戸末期	H13.10.12
R73	国登録	有形文化財	建造物	徳乗坊門	1棟	宗教学法人徳乗坊	明治初期	H13.10.12
R74	国登録	有形文化財	建造物	禪明坊門	1棟	宗教学法人禅明坊	明治初期	H13.10.12
R75	国登録	有形文化財	建造物	真盛園講堂(旧専門学寮講堂)	1棟	社会福祉法人真盛園	昭和12年	H13.10.12
R76	国登録	有形文化財	建造物	安養院阿弥陀堂	1棟	宗教学法人安養院	昭和9年	H13.10.12
R77	国登録	有形文化財	建造物	安養院庫裡	1棟	宗教学法人安養院	昭和3年	H13.10.12
R78	国登録	有形文化財	建造物	安養院書院	1棟	宗教学法人安養院	昭和5年	H13.10.12
R79	国登録	有形文化財	建造物	安養院門	1棟	宗教学法人安養院	昭和2年	H13.10.12
R80	国登録	有形文化財	建造物	安養院弁天堂	1棟	宗教学法人安養院	昭和10年	H13.10.12
R81	国登録	有形文化財	建造物	安養院地藏堂	1棟	宗教学法人安養院	江戸末期	H13.10.12
R82	国登録	有形文化財	建造物	安養院聖天堂	1棟	宗教学法人安養院	江戸後期	H13.10.12
R83	国登録	有形文化財	建造物	安養院礼拝堂	1棟	宗教学法人安養院	昭和8年	H13.10.12
R84	国登録	有形文化財	建造物	安養院蔵	1棟	宗教学法人安養院	昭和9年	H13.10.12
R85	国登録	有形文化財	建造物	葛野常満家住宅主屋	1棟	個人	天保年間	H13.11.20
R86	国登録	有形文化財	建造物	葛野常満家住宅蔵	1棟	個人	明治6年	H13.11.20
R87	国登録	有形文化財	建造物	葛野常喜家住宅主屋	1棟	個人	天保14年	H14.3.12
R88	国登録	有形文化財	建造物	葛野常喜家住宅蔵	1棟	個人	江戸後期	H14.3.12
R89	国登録	有形文化財	建造物	大津魚忠	1棟	有限会社ウオチュウ	明治38年	H14.3.12
R90	国登録	有形文化財	建造物	北川家住宅主屋	1棟	個人	江戸末期	H22.5.20
R91	国登録	有形文化財	建造物	北川家住宅土蔵	1棟	個人	江戸末期	H22.5.20
R92	国登録	有形文化財	建造物	石田家住宅主屋	1棟	個人	昭和12年	H22.5.20
R93	国登録	有形文化財	建造物	石田家住宅洋館(石田歯科医院)	1棟	個人	昭和12年	H22.5.20
R94	国登録	有形文化財	建造物	桐畑家住宅主屋	1棟	個人	明治中期	H22.5.20

表 3-5 国登録文化財一覧(3/3)

図 No.	区分	種別	名称	員数	所有者	時代	登録年月日	
R95	国登録	有形文化財	建造物	桐畑家住宅離れ	1棟	個人	江戸末期	H22.5.20
R96	国登録	有形文化財	建造物	桐畑家住宅土蔵	1棟	個人	正徳6年	H22.5.20
R97	国登録	有形文化財	建造物	佐野家住宅主屋	1棟	個人	天保9年	H22.5.20
R98	国登録	有形文化財	建造物	佐野家住宅土蔵	1棟	個人	江戸末期	H22.5.20
R99	国登録	有形文化財	建造物	初田家住宅主屋	1棟	個人	江戸末期	H22.5.20
R100	国登録	有形文化財	建造物	初田家住宅土蔵	1棟	個人	江戸末期	H22.5.20
R101	国登録	有形文化財	建造物	初田家住宅塀	1棟	個人	江戸末期	H22.5.20
R102	国登録	有形文化財	建造物	大津市旧大津公会堂	1棟	大津市	昭和9年	H23.1.26
R103	国登録	有形文化財	建造物	小川家住宅主屋	1棟	個人	江戸末期	H23.7.25
R104	国登録	有形文化財	建造物	小川家住宅土蔵	1棟	個人	江戸末期	H23.7.25
R105	国登録	有形文化財	建造物	森本家住宅主屋	1棟	個人	嘉永2年	H23.7.25
R106	国登録	有形文化財	建造物	森本家住宅門塀	1棟	個人	昭和前期	H23.7.25
R107	国登録	有形文化財	建造物	豆信料亭棟	1棟	個人	大正7年	H23.10.28
R108	国登録	有形文化財	建造物	豆信蔵	1棟	個人	大正前期	H23.10.28
R109	国登録	有形文化財	建造物	豆信門塀	1棟	個人	昭和9年	H23.10.28
R110	国登録	有形文化財	建造物	木村家住宅主屋	1棟	個人	明治前期	H24.8.13
R111	国登録	有形文化財	建造物	木村家住宅土蔵	1棟	個人	明治前期	H24.8.13
R112	国登録	有形文化財	建造物	中野家住宅主屋	1棟	個人	明治5年	H24.8.13
R113	国登録	有形文化財	建造物	中野家住宅離れ	1棟	個人	明治後期	H24.8.13
R114	国登録	有形文化財	建造物	中野家住宅土蔵	1棟	個人	明治前期	H24.8.13
R115	国登録	有形文化財	建造物	中野家住宅主屋	1棟	個人	明治43年	H24.8.13
R116	国登録	有形文化財	建造物	川嶋家住宅主屋	1棟	個人	昭和前期	H24.8.13
R117	国登録	有形文化財	建造物	川嶋家住宅土蔵	1棟	個人	明治後期	H24.8.13
R118	国登録	有形文化財	建造物	太田家住宅主屋	1棟	個人	明治3年	H24.8.13
R119	国登録	有形文化財	建造物	太田家住宅塀	1棟	個人	明治前期	H24.8.13
R120	国登録	有形文化財	建造物	阪本屋店舗兼主屋	1棟	個人	昭和11年	H25.3.29
R121	国登録	有形文化財	建造物	橋本家住宅(旧正蔵坊)主屋	1棟	個人	正保元年	H25.3.29
R122	国登録	有形文化財	建造物	滋賀県庁本館	1棟	滋賀県	昭和14年	H26.12.19
R123	国登録	有形文化財	建造物	宮本家住宅主屋	1棟	個人	昭和5年	H26.12.19
R124	国登録	有形文化財	建造物	旧多田家住宅主屋	1棟	個人	明治中期	H26.12.19
R125	国登録	有形文化財	建造物	龍谷大学瀬田学舎樹心館	1棟	学校法人龍谷大学	明治18年	H27.8.4
R126	国登録	有形文化財	建造物	奥村家住宅主屋	1棟	個人	昭和10年	H29.10.27
R127	国登録	有形文化財	建造物	川村家住宅主屋	1棟	個人	大正12年	H29.10.27
R128	国登録	有形文化財	建造物	粹世主屋	1棟	株式会社湖北設計	昭和8年	H30.3.27
	国登録	有形民俗文化財		琵琶湖の漁撈用具及び船大工用具	2437点	滋賀県		H30.3.8
R129	国登録	有形民俗文化財		田上の衣生活資料	1358点	宗教法人真光寺		H31.3.28
R130	国登録	名勝		近江八景(三井晚鐘)		宗教法人園城寺		H21.2.12
R131	国登録	名勝		近江八景(堅田落雁)		宗教法人満月寺		H21.2.12

表 3-6 大津市坂本伝統的建造物群保存地区内における伝統的建造物及び環境物件一覧(1/5)

番号	区分	種別	名称	員数	所有者	指定年月日
1	伝建特定	建造物	大林院薬医門	1棟	大林院	H9.10.31
2	伝建特定	建造物	厳王院庫裏	1棟	厳王院	H9.10.31
3	伝建特定	建造物	厳王院棟門	1棟	厳王院	H9.10.31
4	伝建特定	建造物	戒光院庫裏	1棟	戒光院	H9.10.31
5	伝建特定	建造物	戒光院薬医門・土塀	1棟	戒光院	H9.10.31
6	伝建特定	建造物	弘法寺庫裏	1棟	弘法寺	H9.10.31
7	伝建特定	建造物	禪定院庫裏	1棟	禪定院	H9.10.31
8	伝建特定	建造物	大慈院庫裏	1棟	大慈院	H9.10.31
9	伝建特定	建造物	大慈院護摩堂	1棟	大慈院	H9.10.31
10	伝建特定	建造物	大慈院薬医門	1棟	大慈院	H9.10.31
11	伝建特定	建造物	円乗院庫裏	1棟	円乗院	H9.10.31
12	伝建特定	建造物	円乗院薬医門	1棟	円乗院	H9.10.31
13	伝建特定	建造物	真蔵院庫裏	1棟	真蔵院	H9.10.31
14	伝建特定	建造物	華蔵院庫裏	1棟	華蔵院	H9.10.31
15	伝建特定	建造物	華蔵院薬医門	1棟	華蔵院	H9.10.31
16	伝建特定	建造物	観明院庫裏	1棟	観明院	H9.10.31
17	伝建特定	建造物	観明院薬医門	1棟	観明院	H9.10.31
18	伝建特定	建造物	無量院庫裏	1棟	無量院	H9.10.31
19	伝建特定	建造物	無量院護摩堂	1棟	無量院	H9.10.31
20	伝建特定	建造物	行泉院庫裏	1棟	行泉院	H9.10.31
21	伝建特定	建造物	乘実院庫裏	1棟	乘実院	H9.10.31
22	伝建特定	建造物	金台院庫裏	1棟	金台院	H9.10.31
23	伝建特定	建造物	金台院薬医門	1棟	金台院	H9.10.31
24	伝建特定	建造物	生源寺本堂	1棟	生源寺	H9.10.31
25	伝建特定	建造物	生源寺鐘楼	1棟	生源寺	H9.10.31
26	伝建特定	建造物	生源寺薬医門	1棟	生源寺	H9.10.31
27	伝建特定	建造物	天台宗滋賀教区宗務所庫裏	1棟	天台宗滋賀教区	H9.10.31
28	伝建特定	建造物	天台宗滋賀教区宗務所薬医門	1棟	天台宗滋賀教区	H9.10.31
29	伝建特定	建造物	薬樹院庫裏	1棟	薬樹院	H9.10.31
30	伝建特定	建造物	薬樹院土蔵	1棟	薬樹院	H9.10.31

表 3-6 大津市坂本伝統的建造物群保存地区内における伝統的建造物及び環境物件一覧（2 / 5）

番号	区分	種別	名称	員数	所有者	指定年月日
31	伝建特定	建造物	薬樹院薬医門	1棟	薬樹院	H9.10.31
32	伝建特定	建造物	寿量院庫裏	1棟	寿量院	H9.10.31
33	伝建特定	建造物	寿量院向唐門	1棟	寿量院	H9.10.31
34	伝建特定	建造物	実蔵坊庫裏	1棟	実蔵坊	H9.10.31
35	伝建特定	建造物	実蔵坊堂	1棟	実蔵坊	H9.10.31
36	伝建特定	建造物	実蔵坊薬医門	1棟	実蔵坊	H9.10.31
37	伝建特定	建造物	律院庫裏	1棟	律院	H9.10.31
38	伝建特定	建造物	律院本堂	1棟	律院	H9.10.31
39	伝建特定	建造物	律院鐘楼	1棟	律院	H9.10.31
40	伝建特定	建造物	恵光院庫裏	1棟	恵光院	H9.10.31
41	伝建特定	建造物	恵光院棟門	1棟	恵光院	H9.10.31
42	伝建特定	建造物	蓮華院庫裏	1棟	蓮華院	H9.10.31
43	伝建特定	建造物	止観院庫裏	1棟	止観院	H9.10.31
44	伝建特定	建造物	止観院薬医門	1棟	止観院	H9.10.31
45	伝建特定	建造物	止観院土蔵	1棟	止観院	H9.10.31
46	伝建特定	建造物	止観院土蔵	1棟	止観院	H9.10.31
47	伝建特定	建造物	求法寺庫裏	1棟	求法寺	H9.10.31
48	伝建特定	建造物	求法寺棟門	1棟	求法寺	H9.10.31
49	伝建特定	建造物	求法寺手水舎	1棟	求法寺	H9.10.31
50	伝建特定	建造物	松寿院庫裏	1棟	松寿院	H9.10.31
51	伝建特定	建造物	芙蓉園棧敷	1棟	延暦寺	H9.10.31
52	伝建特定	建造物	仏乗院庫裏	1棟	仏乗院	H9.10.31
53	伝建特定	建造物	仏乗院付属屋	1棟	仏乗院	H9.10.31
54	伝建特定	建造物	仏乗院棟門	1棟	仏乗院	H9.10.31
55	伝建特定	建造物	仏乗院土蔵	1棟	仏乗院	H9.10.31
56	伝建特定	建造物	妙行院庫裏	1棟	妙行院	H9.10.31
57	伝建特定	建造物	妙行院棟門	1棟	妙行院	H9.10.31
58	伝建特定	建造物	円教院棟門	1棟	円教院	H9.10.31
59	伝建特定	建造物	金蔵院薬医門	1棟	金蔵院	H9.10.31
60	伝建特定	建造物	雙巖院庫裏	1棟	雙巖院	H9.10.31
61	伝建特定	建造物	雙巖院護摩堂	1棟	雙巖院	H9.10.31
62	伝建特定	建造物	雙巖院棟門	1棟	雙巖院	H9.10.31
63	伝建特定	建造物	五智院庫裏	1棟	五智院	H9.10.31
64	伝建特定	建造物	五智院棟門	1棟	五智院	H9.10.31
65	伝建特定	建造物	叡山文庫高麗門	1棟	叡山文庫	H9.10.31
66	伝建特定	建造物	滋賀院本堂	1棟	滋賀院	H9.10.31
67	伝建特定	建造物	滋賀院書院	1棟	滋賀院	H9.10.31
68	伝建特定	建造物	滋賀院二階書院	1棟	滋賀院	H9.10.31
69	伝建特定	建造物	滋賀院客殿	1棟	滋賀院	H9.10.31
70	伝建特定	建造物	滋賀院庫裏	1棟	滋賀院	H9.10.31
71	伝建特定	建造物	滋賀院庫裏・土塀	1棟	滋賀院	H9.10.31
72	伝建特定	建造物	滋賀院土蔵	1棟	滋賀院	H9.10.31
73	伝建特定	建造物	滋賀院土蔵	1棟	滋賀院	H9.10.31
74	伝建特定	建造物	滋賀院土蔵	1棟	滋賀院	H9.10.31
75	伝建特定	建造物	滋賀院四脚門	1棟	滋賀院	H9.10.31
76	伝建特定	建造物	滋賀院薬医門	1棟	滋賀院	H9.10.31
77	伝建特定	建造物	滋賀院棟門	1棟	滋賀院	H9.10.31
78	伝建特定	建造物	華王院庫裏	1棟	華王院	H9.10.31
79	伝建特定	建造物	華王院付属屋	1棟	華王院	H9.10.31
80	伝建特定	建造物	華王院棟門	1棟	華王院	H9.10.31
81	伝建特定	建造物	宝積院庫裏	1棟	宝積院	H9.10.31
82	伝建特定	建造物	宝積院棟門	1棟	宝積院	H9.10.31
83	伝建特定	建造物	恵日院高麗門	1棟	恵日院	H9.10.31
84	伝建特定	建造物	理性院庫裏	1棟	理性院	H9.10.31
85	伝建特定	建造物	理性院付属屋	1棟	理性院	H9.10.31
86	伝建特定	建造物	理性院棟門	1棟	理性院	H9.10.31
87	伝建特定	建造物	吉祥院庫裏	1棟	吉祥院	H9.10.31
88	伝建特定	建造物	吉祥院棟門	1棟	吉祥院	H9.10.31
89	伝建特定	建造物	龍王院庫裏	1棟	龍王院	H9.10.31
90	伝建特定	建造物	観樹院庫裏	1棟	観樹院	H9.10.31
91	伝建特定	建造物	観樹院土蔵	1棟	観樹院	H9.10.31
92	伝建特定	建造物	早尾地藏堂	1棟	早尾地藏	H9.10.31
93	伝建特定	建造物	長屋門	1棟	延暦寺	H9.10.31
94	伝建特定	建造物	伊藤家庫裏	1棟	個人	H9.10.31
95	伝建特定	建造物	伊藤家棟門	1棟	個人	H9.10.31
96	伝建特定	建造物	伊藤家土蔵	1棟	個人	H9.10.31
97	伝建特定	建造物	旧竹林院庫裏	1棟	大津市	H9.10.31
98	伝建特定	建造物	旧竹林院土蔵	1棟	大津市	H9.10.31
99	伝建特定	建造物	旧竹林院薬医門	1棟	大津市	H9.10.31
100	伝建特定	建造物	芙蓉園別館（書院）	1棟	個人	H9.10.31
101	伝建特定	建造物	堂	1棟		H9.10.31
102	伝建特定	建造物	堂	1棟		H9.10.31
103	伝建特定	建造物	宵宮場拜殿	1棟	日吉大社	H9.10.31

表 3-6 大津市坂本伝統的建造物群保存地区区内における伝統的建造物及び環境物件一覧(3/5)

番号	区分	種別	名称	員数	所有者	指定年月日
104	伝建特定	建造物	産屋社本殿	1棟	日吉大社	H9.10.31
105	伝建特定	建造物	鼠社本殿	1棟	日吉大社	H9.10.31
106	伝建特定	建造物	百枝天満宮本殿	2棟	百枝天満宮	H9.10.31
107	伝建特定	建造物	百枝天満宮本殿覆屋	1棟	百枝天満宮	H9.10.31
108	伝建特定	建造物	冠者殿神社本殿	2棟	冠者殿神社	H9.10.31
109	伝建特定	建造物	市殿神社本殿	1棟	市殿神社	H9.10.31
110	伝建特定	建造物	大將軍神社本殿	1棟	大將軍神社	H9.10.31
111	伝建特定	建造物	流護院社本殿	1棟	流護院社	H9.10.31
112	伝建特定	史跡	大林院石垣		大林院	H9.10.31
113	伝建特定	史跡	嚴王院石垣		嚴王院	H9.10.31
114	伝建特定	建造物	戒光院土塀		戒光院	H9.10.31
115	伝建特定	史跡	戒光院石垣		戒光院	H9.10.31
116	伝建特定	建造物	弘法寺土塀		弘法寺	H9.10.31
117	伝建特定	史跡	弘法寺石垣		弘法寺	H9.10.31
118	伝建特定	石造物	禪定院宝篋印塔	1基	禪定院	H9.10.31
119	伝建特定	史跡	大慈院石垣		大慈院	H9.10.31
120	伝建特定	史跡	円乗院石垣		円乗院	H9.10.31
121	伝建特定	史跡	真藏院石垣		真藏院	H9.10.31
122	伝建特定	史跡	華藏院石垣		華藏院	H9.10.31
123	伝建特定	史跡	観明院石垣		観明院	H9.10.31
124	伝建特定	史跡	行泉院石垣		行泉院	H9.10.31
125	伝建特定	石造物	行泉院石碑		行泉院	H9.10.31
126	伝建特定	史跡	乘実院石垣		乘実院	H9.10.31
127	伝建特定	史跡	金台院石垣		金台院	H9.10.31
128	伝建特定	石造物	金台院石橋		金台院	H9.10.31
129	伝建特定	建造物	生源寺土塀		生源寺	H9.10.31
130	伝建特定	史跡	生源寺石垣		生源寺	H9.10.31
131	伝建特定	史跡	天台宗滋賀教区宗務所石垣		天台宗滋賀教区	H9.10.31
132	伝建特定	史跡	薬樹院石垣		薬樹院	H9.10.31
133	伝建特定	史跡	寿量院石垣		寿量院	H9.10.31
134	伝建特定	史跡	実藏坊石垣		実藏坊	H9.10.31
135	伝建特定	石造物	実藏坊燈籠	2基	実藏坊	H9.10.31
136	伝建特定	史跡	律院石垣		律院	H9.10.31
137	伝建特定	石造物	律院石碑	1基	律院	H9.10.31
138	伝建特定	建造物	恵光院土塀		恵光院	H9.10.31
139	伝建特定	史跡	恵光院石垣		恵光院	H9.10.31
140	伝建特定	史跡	蓮華院石垣		蓮華院	H9.10.31
141	伝建特定	建造物	止観院土塀		止観院	H9.10.31
142	伝建特定	史跡	止観院石垣		止観院	H9.10.31
143	伝建特定	史跡	求法寺石垣		求法寺	H9.10.31
144	伝建特定	石造物	求法寺燈籠	6基	求法寺	H9.10.31
145	伝建特定	史跡	日増院石垣		日増院	H9.10.31
146	伝建特定	史跡	靈山院石垣		靈山院	H9.10.31
147	伝建特定	史跡	松寿院石垣		松寿院	H9.10.31
148	伝建特定	史跡	芙蓉園本館石垣		延暦寺	H9.10.31
149	伝建特定	史跡	仏乗院石垣		仏乗院	H9.10.31
150	伝建特定	史跡	比叡山中学校石垣		比叡山中学校	H9.10.31
151	伝建特定	史跡	妙行院石垣		妙行院	H9.10.31
152	伝建特定	石造物	妙行院石碑		妙行院	H9.10.31
153	伝建特定	史跡	円教院石垣		円教院	H9.10.31
154	伝建特定	建造物	金藏院土塀		金藏院	H9.10.31
155	伝建特定	史跡	金藏院石垣		金藏院	H9.10.31
156	伝建特定	史跡	双巖院石垣		双巖院	H9.10.31
157	伝建特定	史跡	瑞心院石垣		瑞心院	H9.10.31
158	伝建特定	史跡	五智院石垣		五智院	H9.10.31
159	伝建特定	史跡	玉蓮院石垣		玉蓮院	H9.10.31
160	伝建特定	史跡	龍珠院石垣		龍珠院	H9.10.31
161	伝建特定	史跡	天台宗務庁第二庁舎石垣		天台宗務庁	H9.10.31
162	伝建特定	史跡	叡山文庫石垣		叡山文庫	H9.10.31
163	伝建特定	建造物	滋賀院土塀		滋賀院	H9.10.31
164	伝建特定	史跡	滋賀院石垣		滋賀院	H9.10.31
165	伝建特定	史跡	天台宗務庁石垣		天台宗務庁	H9.10.31
166	伝建特定	史跡	華王院石垣		華王院	H9.10.31
167	伝建特定	建造物	華王院土塀		華王院	H9.10.31
168	伝建特定	建造物	宝積院土塀		宝積院	H9.10.31
169	伝建特定	史跡	宝積院石垣		宝積院	H9.10.31
170	伝建特定	史跡	比叡山高枝山家寮石垣		比叡山高枝	H9.10.31
171	伝建特定	建造物	恵日院土塀		恵日院	H9.10.31
172	伝建特定	史跡	恵日院石垣		恵日院	H9.10.31
173	伝建特定	石造物	恵日院燈籠	15基	恵日院	H9.10.31
174	伝建特定	石造物	恵日院燈籠	2基	恵日院	H9.10.31
175	伝建特定	石造物	恵日院石畳		恵日院	H9.10.31
176	伝建特定	石造物	恵日院無縫塔	24基	恵日院	H9.10.31

表 3-6 大津市坂本伝統的建造物群保存地区内における伝統的建造物及び環境物件一覧(4/5)

番号	区分	種別	名称	員数	所有者	指定年月日
177	伝建特定	彫刻	恵日院石仏(阿弥陀)	13基	恵日院	H9.10.31
178	伝建特定	石造物	恵日院五輪塔	24基	恵日院	H9.10.31
179	伝建特定	石造物	恵日院燈籠	15基	恵日院	H9.10.31
180	伝建特定	石造物	恵日印宝塔	2基	恵日院	H9.10.31
181	伝建特定	石造物	恵日院宝篋印塔	2基	恵日院	H9.10.31
182	伝建特定	石造物	恵日院九重層塔	3基	恵日院	H9.10.31
183	伝建特定	史跡	理性院石垣		理性院	H9.10.31
184	伝建特定	史跡	比叡山幼稚園石垣		比叡山幼稚園	H9.10.31
185	伝建特定	史跡	明德院石垣		明德院	H9.10.31
186	伝建特定	石造物	早尾地藏堂燈籠	1基	延暦寺	H9.10.31
187	伝建特定	史跡	早尾地藏堂石垣		延暦寺	H9.10.31
188	伝建特定	史跡	長屋門石垣		延暦寺	H9.10.31
189	伝建特定	史跡	石垣		延暦寺	H9.10.31
190	伝建特定	史跡	みどり園石垣		社福法人和光会	H9.10.31
191	伝建特定	史跡	石垣		個人	H9.10.31
192	伝建特定	史跡	石垣		個人	H9.10.31
193	伝建特定	史跡	旧竹林院石垣		大津市	H9.10.31
194	伝建特定	石造物	燈籠	1基		H9.10.31
195	伝建特定	石造物	日吉東照宮鳥居	1基	日吉大社	H9.10.31
196	伝建特定	石造物	日吉東照宮燈籠	2基	日吉大社	H9.10.31
197	伝建特定	石造物	百枝天満宮鳥居	1基	百枝天満宮	H9.10.31
198	伝建特定	石造物	百枝天満宮燈籠	4基	百枝天満宮	H9.10.31
199	伝建特定	石造物	冠者殿神社鳥居	1基	冠者殿神社	H9.10.31
200	伝建特定	石造物	冠者殿神社燈籠	1基	冠者殿神社	H9.10.31
201	伝建特定	石造物	冠者殿神社石碑	1基	冠者殿神社	H9.10.31
202	伝建特定	石造物	市殿神社鳥居	1基	市殿神社	H9.10.31
203	伝建特定	石造物	市殿神社燈籠	2基	市殿神社	H9.10.31
204	伝建特定	史跡	大將軍神社石垣		大將軍神社	H9.10.31
205	伝建特定	彫刻	大將軍神社狛犬	1対	大將軍神社	H9.10.31
206	伝建特定	建造物	大將軍神社石橋	1基	大將軍神社	H9.10.31
207	伝建特定	石造物	大將軍神社燈籠	2基	大將軍神社	H9.10.31
208	伝建特定	建造物	大將軍神社石塀		大將軍神社	H9.10.31
209	伝建特定	石造物	流護院社鳥居	1基	流護院社	H9.10.31
210	伝建特定	石造物	流護院社燈籠	2基	流護院社	H9.10.31
211	伝建特定	史跡	榊宮社石垣		榊宮社	H9.10.31
212	伝建特定	石造物	榊宮社鳥居	1基	榊宮社	H9.10.31
213	伝建特定	石造物	榊宮神社燈籠	4基	榊宮神社	H9.10.31
214	伝建特定	石造物	大富騎鈴社燈籠	2基	大富騎鈴社	H9.10.31
215	伝建特定	史跡	石垣		個人	H9.10.31
216	伝建特定	史跡	石垣		個人	H9.10.31
217	伝建特定	史跡	石垣		個人	H9.10.31
218	伝建特定	史跡	石垣		個人	H9.10.31
219	伝建特定	史跡	石垣		個人	H9.10.31
220	伝建特定	石造物	日吉馬場燈籠	47基		H9.10.31
221	伝建特定	石造物	道標	3基		H9.10.31
222	伝建特定	石造物	燈籠	2基		H9.10.31
223	伝建特定	石造物	道標	2基		H9.10.31
224	伝建特定	石造物	石碑	1基		H9.10.31
225	伝建特定	石造物	燈籠	2基		H9.10.31
226	伝建特定	環境	大林院生垣		大林院	H9.10.31
227	伝建特定	環境	戒光院生垣		戒光院	H9.10.31
228	伝建特定	環境	弘法寺生垣		弘法寺	H9.10.31
229	伝建特定	環境	禪定院生垣		禪定院	H9.10.31
230	伝建特定	環境	大慈院生垣		大慈院	H9.10.31
231	伝建特定	環境	真藏院生垣		真藏院	H9.10.31
232	伝建特定	環境	華藏院生垣		華藏院	H9.10.31
233	伝建特定	環境	観明院生垣		観明院	H9.10.31
234	伝建特定	環境	無量院生垣		無量院	H9.10.31
235	伝建特定	環境	行泉院生垣		行泉院	H9.10.31
236	伝建特定	環境	金台院生垣		金台院	H9.10.31
237	伝建特定	環境	金台院水路		金台院	H9.10.31
238	伝建特定	環境	天台宗滋賀教区宗務所生垣		天台宗滋賀教区	H9.10.31
239	伝建特定	環境	薬樹院生垣		薬樹院	H9.10.31
240	伝建特定	環境	薬樹院サクラ		薬樹院	H9.10.31
241	伝建特定	環境	寿量院生垣		寿量院	H9.10.31
242	伝建特定	環境	実藏坊生垣		実藏坊	H9.10.31
243	伝建特定	環境	律院竹垣		律院	H9.10.31
244	伝建特定	環境	蓮華院生垣		蓮華院	H9.10.31
245	伝建特定	環境	止観院生垣		止観院	H9.10.31
246	伝建特定	環境	松寿院生垣		松寿院	H9.10.31
247	伝建特定	環境	芙蓉園生垣		延暦寺	H9.10.31
248	伝建特定	環境	仏乗院生垣		仏乗院	H9.10.31
249	伝建特定	環境	比叡山中学校生垣		比叡山中学校	H9.10.31

表 3-6 大津市坂本伝統的建造物群保存地区区内における伝統的建造物及び環境物件一覧（5 / 5）

番号	区分	種別	名称	員数	所有者	指定年月日
250	伝建特定	環境	妙行院生垣		妙行院	H9. 10. 31
251	伝建特定	環境	円教院生垣		円教院	H9. 10. 31
252	伝建特定	環境	雙巖院竹垣		雙巖院	H9. 10. 31
253	伝建特定	環境	雙巖院生垣		雙巖院	H9. 10. 31
254	伝建特定	環境	瑞応院生垣		瑞応院	H9. 10. 31
255	伝建特定	環境	五智院生垣		五智院	H9. 10. 31
256	伝建特定	環境	龍珠院生垣		龍珠院	H9. 10. 31
257	伝建特定	環境	華王院竹垣		華王院	H9. 10. 31
258	伝建特定	環境	宝積院生垣		宝積院	H9. 10. 31
259	伝建特定	環境	恵日院生垣		恵日院	H9. 10. 31
260	伝建特定	環境	恵日院竹垣		恵日院	H9. 10. 31
261	伝建特定	環境	理性院生垣		理性院	H9. 10. 31
262	伝建特定	環境	吉祥院生垣		吉祥院	H9. 10. 31
263	伝建特定	環境	明德院生垣		明德院	H9. 10. 31
264	伝建特定	環境	早尾地藏堂ムクノキ		延暦寺	H9. 10. 31
265	伝建特定	環境	生垣		個人	H9. 10. 31
266	伝建特定	環境	生垣		個人	H9. 10. 31
267	伝建特定	環境	百枝天満宮サクラ	1 株	百枝天満宮	H9. 10. 31
268	伝建特定	環境	市殿神社マツ	1 株	市殿神社	H9. 10. 31
269	伝建特定	環境	大將軍神社スダジイ、ムクノキ	2 株	大將軍神社	H9. 10. 31
270	伝建特定	環境	日吉東照宮参道		日吉大社	H9. 10. 31
271	伝建特定	環境	生垣		個人	H9. 10. 31
272	伝建特定	環境	生垣		個人	H9. 10. 31

※指定文化財（建造物・名勝）を除く。

注) 時代区分は下表のとおりとする。

時代区分	年代
縄文	BC7500 年頃 - BC300 年頃
弥生	BC300 年頃 - 250 年頃
古墳	250 年頃 - 645 年
奈良	645 年 - 794 年
白鳳	645 年 - 710 年
平安	794 年 - 1185 年
鎌倉	1185 年 - 1334 年
南北朝	1334 年 - 1392 年
室町	1392 年 - 1573 年
桃山	1573 年 - 1615 年
江戸	1615 年 - 1868 年
明治	1868 年 - 1912 年
大正	1912 年 - 1926 年
昭和	1926 年 - 1989 年

※滋賀県文化財目録（平成二十四年度版）を参照

(3) 指定等を受けていない歴史文化遺産

これまでに実施された国・県・市による文化財調査によって把握した指定等を受けていない歴史文化遺産（美術工芸品を除く）は、表 3-7 に示した 2,459 件ある。内訳は巻末資料－1 で、各表末尾の出典から令和元年 5 月末時点で所在を確認したものである。

種別は大分類として、「寺社」「建造物」「石造物」「無形民俗」「遺跡」「名勝地・自然環境」「文化的景観」の 7 つに分けた。

「寺社」は、「寺院」「神社」を地域における歴史文化の中核となる歴史文化遺産として捉えたもので、合わせて 587 件であった。「建造物」は、「寺院建築」「神社建築」「住宅等」「その他建造物」に分けられ、323 件となる。このうち「住宅等」は街道筋に残る町家などが、「その他建造物」には近代化遺産である発電所や鉄道関連の建造物が含まれる。「石造物」は、「道標」「石碑」「その他」に分類され、「石碑」には、顕彰碑や記念碑、文学碑、「その他」には燈籠や石仏などを含み、535 件であった。「無形民俗」は「祭礼・行事」「伝承」に分けられ、475 件となる。「遺跡」は 462 件となり、「埋蔵文化財包蔵地」「古道」「その他遺跡・旧跡」に分けられる。東海道や北国海道（西近江路）などの旧街道や山中越（志賀越）、小関越などの古道は「古道」に分類し、本陣跡や墓地は「その他遺跡・旧跡」に分類した。「名勝地・自然環境」は「庭園」「樹木・樹林」「その他名勝地・自然環境」に分けられ、62 件となる。現在大津市内には選定を受けたものはないが、「文化的景観」は 15 件であった。

地域別に見てみると、中北部地域が最も多く、中南部・東部地域は比較的少ないものの、指定等を受けていない歴史文化遺産は市内一円に残されている。

指定等を受けていない歴史文化遺産の一覧・分布図は巻末資料－1 参照

表 3-7 指定等を受けていない歴史文化遺産の種別件数（地域区分別）

大分類	小分類	北部	西北部	中北部	中部	中南部	南部	東部	総計
寺社	寺院	28	57	136	106	28	38	32	425
	神社	21	30	43	20	11	23	14	162
	(小計)	49	87	179	126	39	61	46	587
建造物	寺院建築	31	31	8	10	2	19	0	101
	神社建築	14	10	6	10	6	1	1	48
	住宅等	25	24	22	15	11	10	4	111
	その他建築物	17	6	0	16	5	15	4	63
	(小計)	87	71	36	51	24	45	9	323
石造物	道標	14	16	81	19	6	25	8	169
	石碑	6	23	37	85	36	23	22	232
	その他石造物	69	7	37	10	0	11	0	134
	(小計)	89	46	155	114	42	59	30	535
無形民俗	祭礼・行事	24	40	51	39	19	57	26	256
	伝承	62	36	28	41	19	22	11	219
	(小計)	86	76	79	80	38	79	37	475
遺跡	埋蔵文化財包蔵地	75	59	74	48	15	57	60	388
	古道※	1	4	7	4	1	5	0	22
	その他遺跡・旧跡	14	3	8	13	11	2	1	52
	(小計)	90	66	89	65	27	64	61	462
名勝地・自然環境	庭園	0	1	2	5	1	0	0	9
	樹木・樹林	27	6	8	1	1	5	1	49
	その他名勝地・自然環境	2	1	1	0	0	0	0	4
	(小計)	29	8	11	6	2	5	1	62
文化的景観	3	4	2	2	1	2	1	15	
総計		433	358	551	444	173	315	185	2,459

※表中では、東海道は中部に、北国街道は北部に、若狭街道は西北部に含めたが、実際には複数地域にまたがっている。

3-3 歴史文化の保存・活用の取り組み経緯

(1) 保存

ア 文化財の指定等

明治30年(1897)に、わが国における文化財保護に係る最初の法律として、古社寺の建造物及び宝物類を対象とした「古社寺保存法」が制定される。大津市では、石山寺多宝塔(国宝)、石山寺本堂(国宝)、延暦寺根本中堂(国宝)、園城寺金堂(国宝)、日吉大社東本宮本殿及び拝殿(国宝)、同大社西本宮本殿及び拝殿(国宝)、光浄院客殿(国宝)、勸学院客殿(国宝)など多くの建造物が文化財指定を受け、保存されてきた。



写3-26 日吉大社西本宮本殿

一方、遺跡や名勝地については、大正8年(1919)に「史蹟名勝天然紀念物保存法」が制定されると、大正10年の茶臼山古墳・小茶臼山古墳を嚆矢として、史跡の指定が進められた。

戦後の昭和25年(1950)、「国宝保存法」と「史蹟名勝天然紀念物保存法」を廃止・統合して、現在の「文化財保護法」が制定され、旧法による指定物件は、文化財保護法に基づく文化財指定へと引き継がれた。その後も、随時、文化財保護法は改正され、地方公共団体による文化財保護制度の創設、新たな文化財種別の追加など、文化財保護行政の拡充が図られるなかで、近年では、「大津祭の曳山行事」が、国の重要無形民俗文化財に指定されるなど、大津市においても着実に指定等の件数を増やし、令和元年(2019)6月1日現在、国指定・選定330件、県指定81件、市指定128件の合計539件を数える。

平成8年10月1日に施行された文化財保護法の改正によって、保存及び活用についての措置が特に必要とされる文化財建造物を、文部科学大臣が文化財登録原簿に登録する「文化財登録制度」が導入された。この登録制度は、近年の国土開発や都市計画の進展、生活様式の変化等により、社会的評価を受けるまもなく消滅の危機に晒されている多種多様かつ大量の近代等の文化財建造物を後世に幅広く継承していくためにつくられたものである。登録文化財は、届出制と指導・助言等を基本とする緩やかな保護措置を講じるものであり、従来の文化財指定制度(重要なものを厳選し、許可制等の強い規制と手厚い保護を行うもの)を補完するものとして位置づけられている。大津市においても、平成9年(1997)の比叡山鉄道ケーブル坂本駅舎ならびに延暦寺駅舎や本家鶴岳そば主屋を最初に、令和元年6月1日現在、132件の登録を数える。また、平成16年の文化財保護法の一部改正により、登録の対象が有形民俗文化財、記念物にまで広げられると、平成21年には登録記念物(名勝地)として「近江八景(堅田落雁)」と「近江八景(三井晚鐘)」、平成30年には登録有形民俗文化財として「琵琶湖の漁撈用具及び船大工用具」、平成31年には「田上の衣生活資料」が登録された。



写3-27 比叡山鉄道ケーブル延暦寺駅舎

滋賀県による文化財保護制度は、昭和31年滋賀県文化財保護条例が制定され、国の法改正にあわせて制度の充実を図りながら、文化財指定を進めてきた。大津市においても、昭和38年大津市文化財保護条例を制定し(昭和52年全部改正)、大津市文化財専門委員会の審議を経て、昭和40年から文化財指定を進めている。平成2年大津市歴史博物館が開館すると、博物館の調査成果も積極的に取り入れながら、文化財指定を進めてきた。大津市指定文化財からは、西教寺本堂や木造釈迦如来及両脇侍像(常信寺)・木造天部形立像(天満神社)のように県指定を経て重要文化財に指定されたもの、盛安寺客

殿や木造獅子狛犬(若松神社)のように県指定を経ずに重要文化財に指定されたものも数多く見られる。これらの指定等を受けた文化財については、法・条例に基づき適切な保存の措置を講じている。

イ 文化財の防災対策

文化財を保存していくためには、防災対策が重要である。火災に対しては、文化財指定を受けた建造物は自動火災報知設備の設置が義務付けられており、設置に係る経費や点検の経費、さらには消火設備や避雷設備の設置・点検の経費に補助金を交付している。防災設備は、建造物に限らず美術工芸品を安置する建物も対象となっている。近年頻発する地震に対しては、国指定建造物を対象に平成20年(2008)、耐震基礎診断を実施し、平成31年度には地震に対する対処方針を定め、地震による物的・人的被害の軽減につとめている。今後、建造物の修理にあたっては、耐震対策は不可欠である。

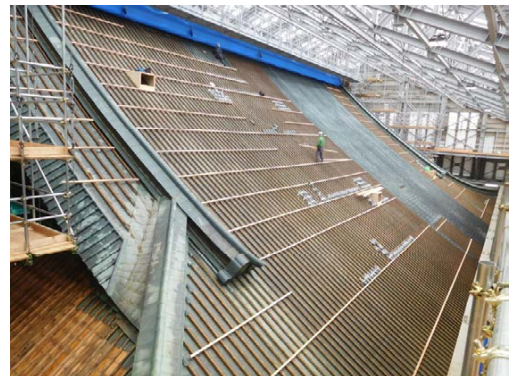
万が一の火災に備えては、1月26日の文化財防火デーを中心に文化財防火運動を行い、各種取り組みを進めている。平成31年には文化財を災害から守るため、各関係機関との連携、協力のとれた総合的な消防訓練を実施することで、広く市民に防火、防災意識及び文化財愛護思想の高揚を図ることを目的として、若松神社において防火訓練を実施した。当日は、消防団や瀬田学区自主防災会、学区の市民、若松神社の関係者など、約110人が参加している。

このような大規模な訓練に加え、消防署単位での訓練や、文化財保護課と消防職員が共同して指定文化財や文化財保有施設の査察を実施することで、文化財を火災の被害から護る取り組みを進めている。

ウ 文化財の保存修理等

大津市では、文化財の保存修理及び管理を着実に進めていくために、補助金を交付してきた。毎年50件程度の保存修理や管理等を対象とし、大津市の過去10年間の補助額は年間1,000万円から4,300万円にのぼる。国指定文化財である延暦寺、園城寺、石山寺、日吉大社など、建造物の修理や防災設備が中心となっているが、大津祭曳山の保存修理など対象となる事業は多岐にわたっている。

また、重要伝統的建造物群保存地区に選定されている坂本地区においても、年間3～5件程度の修理・修景が実施されており、市の補助額は年間1,100万円から1,500万円にのぼる。大慈院庫裏や蓮華院庫裏、無量院庫裏の修理が近年の事業の概要である。このほか、寂光院堂の修景、止観院門の修景なども含まれ、着実に景観整備を進めている。



写3-28 延暦寺根本中堂の修理
(滋賀県教育委員会提供)

エ 文化財指定以外の取り組み

文化財に指定された歴史文化遺産以外にも、多くの市民や団体が地域の歴史文化資源の保存・継承にむけた取り組みを進めている。大津市では、平成20年度から大津市協働提案制度である「テーマ型提案事業」、「パワーアップ・市民活動応援事業」を進めており、毎年活動している団体を助成し、その活動を公開している。

平成30年度まで継続的に協働事業を実施した団体としては、「瀬田東文化振興会・源内峠遺跡復元委員会」があげられる。同団体は、瀬田地域の史跡手作りマッ



写3-29 山ノ神遺跡(一里山三丁目)

ブ作成や源内峠遺跡の古道整備、文化財周辺の清掃活動を通して、地域資源を活かしたまちづくり・まちおこしを目指す活動を進めており、「源内峠遺跡」「山ノ神遺跡」の復元活動なども推進している。

平成 22 年度には、「唐崎学区文化協会 史跡研究部会」が、句会や写生会、地域資源を詠み込んだカルタを活用した事業を通して、学区民、特に子どもたちに唐崎の史跡や文化財を知り、故郷の素晴らしさに誇りを持って、住み良いまちづくりを推進することを目的とする事業を進めた。また、「坂本城を考える会」では、地域にゆかりの深い明智光秀や坂本城に関連するガイドマップ作成及び観光ボランティアガイドの養成・実施等により、地域資源を活用した下阪本地区の観光を振興し、坂本城復元の一助とする活動に対して、市からの支援が採択されている。

平成 27 年度採択事業では、「^{せきせみまる}関蟬丸神社芸能祭実行委員会」が芸能の発展及び大津市の活性化・観光の振興に寄与することを目的として、芸能表現者と地域住民や一般市民の交流の場としての芸能祭を開催する事業を実施している。

地域での独自の取り組みとしては、堅田で「湖族の郷資料館」と観光協会や商工会、地域の神社が協力し、資料の展示、^{くごにん}献饌供御人行列やシンポジウムの開催などを通じて、歴史文化の情報発信を進めている。展示を通じて地域の歴史文化の普及啓発を図る「膳所歴史資料室運営協議会」、収集した田上地域の衣類や紡織用具が国の登録有形民俗文化財に登録された「田上郷土史料館」など、多くの学区において、歴史文化に関わる活動が取り組まれている。

(2) 調査・研究

ア 文化財保護課と文化財調査の歩み

昭和 46 年 (1971)、大津市教育委員会社会教育課に文化財係が設置され、2 年後の昭和 48 年、社会教育課文化財係が独立して文化財保護課となり、以後大津市の文化財保護行政を担っていくこととなる (昭和 52 年文化振興係を設置して文化課に名称変更、平成 9 年 (1997) 文化振興係を市民部に移管して文化財保護課に名称変更、平成 17 年歴史博物館文化財保護課、平成 20 年歴史博物館から分離して文化財保護課となり現在にいたる)。

文化財調査は、当初埋蔵文化財と民俗文化財を中心に進めた。民俗文化財では、昭和 45 年から大津祭曳山連盟と滋賀民俗学会の協力のもとに大津祭総合調査団を結成し、大津祭曳山 13 基とねりものについて 9 年の歳月をかけて調査を実施し、大津祭総合調査報告書 14 冊を刊行した。この調査報告が出発点となり、平成 24 年から 3 年をかけて実施した調査の成果を『大津曳山祭総合調査報告書』として刊行し、平成 28 年の重要無形民俗文化財「大津祭の曳山行事」の指定へとつながっていく。

延暦寺・日吉大社の門前に広がる坂本の町並みは、延暦寺の里坊が点在する他の地域には見られない独特の景観を生み出している。この里坊の町並みを保存するための現状調査を、昭和 54 年に実施し、併せて里坊の特徴のひとつである庭園の調査を昭和 61 年から進め、それぞれ「坂本 町なみ調査報告」、「坂本里坊庭園調査報告書」として刊行した。その結果、平成 9 年に「大津市坂本伝統的建造物群保存地区」として国の選定をうけ、平成 10 年には 10 カ所の庭園が「延暦寺坂本里坊庭園」として国の名勝指定をうけている。

このように、文化財保護課では様々な調査を進めてきたが、市内での道路整備や宅地開発が進められる中で、次第に開発に伴う埋蔵文化財の発掘調査へと重点を移さざるを得ない状況となっていく。一方で、平成 2 年大津市歴史博物館が開館し、美術工芸品や民俗文化財を担当する学芸員が配置された結果、埋蔵文化財以外の調査は歴史博物館が進めていく形となった。現在は、文化財保護課と歴史博物館が協力して調査を進め、その成果が大津市指定文化財へとつながっている。

イ 市史の編さんと歴史博物館

豊かな歴史と文化財をほこる大津市では、明治44年(1911)『大津市志』全3巻、昭和17年(1942)『大津市史』全3巻、昭和37～38年『新大津市史』全3巻が刊行されている。これらの成果をもとに、市制80周年記念事業として昭和53～62年に編さんされた『新修大津市史』は、通史編6巻と地域編3巻、年表・便覧1巻の全10巻からなり、大津市の歴史をまとめた書籍として、多くの市民の共感を得た。中でも地域編3巻は、小学校区を単位に、学区の歴史、文献史料、民俗(祭礼・行事と伝承)、考古・美術(考古と美術)、略年表からなり、学区の歴史を概観できる文献となっている。さらに、『新修大津市史』の編さん過程で得られた様々な情報を、テーマ別にコンパクトにまとめた『ふるさと大津歴史文庫』全10巻を刊行し、こちらも手軽に歴史に親しめる書籍として、多くの版を重ねた。

『新修大津市史』の刊行が進む中、昭和57年「(仮称)大津市立総合資料館」基本構想策定協議会が設置され、『新修大津市史』の編さん過程で集められた資料を活用する事を目的に大津市歴史博物館の建設が決定された。昭和63年10月建設に着手した博物館は、平成2年10月に開館記念特別展「仏教文化の聖地・大津」でスタートを切った。

大津市歴史博物館による地道な文化財調査の成果は、企画展やミニ企画展をはじめとする展覧会に反映するとともに、文化財の指定にもつながっている。

また、平成11年(1999)には市制100周年記念事業の一環として、歴史博物館市史編さん室により、写真や図版を中心にテーマ別に編集した『図説大津の歴史』を刊行する。ここにも歴史博物館の調査成果がふんだんに盛り込まれた。

旧志賀町では平成8～17年にかけて、全5巻からなる『志賀町史』を刊行し、地域の歴史の全貌を明らかにした。平成18年、大津市と志賀町が合併すると、その成果を踏まえて歴史博物館の展示もリニューアルされた。

ウ 埋蔵文化財

昭和29年(1954)の文化財保護法の改正により、土木工事に伴う事前届出制度などを定めた埋蔵文化財保護のための制度が追加された。昭和35～37年には文部省文化局文化財保護委員会(現、文化庁)による全国的な埋蔵文化財包蔵地の分布調査の結果を踏まえて「全国遺跡地図」が刊行され、その後、地方公共団体による分布調査が行われて、詳細な遺跡地図の刊行等が進められた。

大津市における旧石器時代から江戸時代までの埋蔵文化財包蔵地は388ヶ所(集落跡、都城跡、官衙跡、古墳、生産遺跡、社寺跡、城館跡、祭祀跡など)を数える。大津市地図検索サービス「MyTown おおつ」では、埋蔵文化財包蔵地を誰もがインターネット上で把握することが可能となっている。

近年は、年間約50件の試掘調査、約10件程度の本発掘調査を実施しており、その調査原因のほとんどが宅地開発や道路建設などの開発工事に伴う調査である。

調査結果をとりまとめた報告書についてみると、昭和49年に発行された『畑尻遺跡』を嚆矢として、平成30年度までに142冊の刊行に及び、継続的に調査、報告書の作成が進められている。

大津市の埋蔵文化財保護行政の核となる埋蔵文化財調査センターは、平成8年(1996)、国指定史跡^{すうふくじ}崇福寺跡にほど近い滋賀里一丁目に開館した。発掘調査で出土した遺物や記録資料を収蔵・保管・研究し、報告書の刊行や展覧会、講座等を開催している。



写3-30 遺跡の発掘調査風景
(中畑田遺跡・和邇中)

(3) 活用

ア 遺跡の整備

大津市では、遺跡の現状保存と公開・活用を目的に整備を進めてきた。その最初となるのが、昭和56～60年(1981～1985)にかけて古墳公園として整備を進めた皇子山古墳である。京阪電車近江神宮前駅の西側の小高い丘に所在する皇子山古墳からは、琵琶湖を一望することができる。

近江国府関連遺跡の中心地である近江国庁跡は、歴史上貴重な遺跡を保存し、歴史・文化ネットワークの拠点とするため、滋賀県が遺跡公園として整備している。発掘調査によって確認された建物や塀などの遺構面を覆土保護し、国庁の建物配置などが一目で理解できるよう、各遺構の明示がなされ、建物の基壇や築地塀の復原が行われた。さらに、ガイダンス施設を整備することにより、歴史文化遺産の活用に寄与している。

近江国府関連遺跡のうち、惣山遺跡、青江遺跡は大津市によって現在公有化事業を進めており、将来的には、史跡公園として整備する予定である。

また、7世紀中頃に創建された近江最古級の寺院である衣川廃寺跡は、塔跡と金堂跡が直線的に並び隣接するという特殊な伽藍配置を持ち、推定寺域の南端斜面で本寺の瓦を焼成した瓦窯が発見されている。平成6～11年度にかけて整備事業を実施し、金堂基壇、塔基壇、瓦敷遺構の復原、瓦窯の露出展示、史跡のガイダンス施設を整備した。

このほか、大津宮がおかれた錦織遺跡や、大津宮と同時期の寺院跡である穴太廃寺跡など、市内数箇所、土地の公有化事業を進めている。将来的には、歴史文化に親しめるような、史跡公園として整備を行う予定である。



写 3-31 衣川廃寺跡の整備 (衣川二丁目)

イ 学習講座・講演会等

大津市歴史博物館では、「れきはく講座」を継続的に開催しており、令和元年(2019)5月現在で746回を数える。「れきはく講座」は、年間30回程度実施され、おもに学芸員を講師として、企画展の関連講座や現地見学会を行っている。毎回、定員を超える受講申込があり、市民に大津の歴史文化を伝える機会と場を提供している。また、小学校の総合学習の支援や昔の生活道具から暮らしを体験する学習会など学校教育と連携した出前授業も実施している。



写 3-32 れきはく講座

埋蔵文化財調査センターでも、年6回の展示にあわせて関連講座や現地見学会を、学校の夏休みには体験講座を開催している。これに加えて、毎年10以上の小中学校から授業や職場体験の受け入れ、体験授業では、展示室の見学、火おこし体験、貫頭衣着用体験、近隣にある古墳群の見学を実施することで、大津の歴史文化を学ぶ機会を提供している。

また、比叡山坂本活性化事業実行委員会、大津市浜大津・石山地区文化遺産活用実行委員会が、文化庁文化遺産総合活用推進事業の一環として、地域の歴史文化遺産を学ぶフォーラムやワークショップ、セミナーを開催している。各公民館においても、地域の歴史や文化を学ぶ団体が歴史博物館の学芸員など専門家を講師に招いた講演会を実施し、週単位で活動がなされている。

ウ 観光ガイド・人材育成

大津市では「古都おおつ観光ボランティアガイドの会」が結成され、大津市内を訪れる観光客に、大津の文化や自然風土について案内と説明を行っている。同会では、「小野妹子ゆかりの地小野・和邇（小野神社、天皇神社、唐臼山古墳等）」、「湖族の郷・堅田（浮御堂、一休ゆかりの祥瑞寺等）」、「日本仏教の母山、世界遺産・比叡山延暦寺（東塔、西塔、横川）」など9のテーマのもと、20名強の会員が、年間200～300件の案内ガイドを実施している。

浜大津・石山地区では、大津市浜大津・石山地区文化遺産活用実行委員会が、文化庁の文化遺産を活かした地域活性化事業（現、地域文化財総合活用推進事業）の助成を受け、平成23～26年（2011～2014）にかけて、大津城、琵琶湖疏水、三井寺など、歴史文化遺産の背景・魅力を伝えることができるボランティアガイドの育成事業を実施した。このほか、浜大津・石山地区に現存する歴史文化遺産の情報100件をコンテンツ化し、多言語で説明、案内するポータルサイトおよびアプリケーションを作成、歴史文化遺産の情報発信を行っている。



写3-33 ガイドの会・石積み

また坂本地区では、比叡山坂本活性化事業実行委員会が、前述の文化庁の助成を受け、平成25年より坂本地区およびその周辺の自然風土や歴史文化、物産などを案内する「ガイドの会・石積み」のボランティアガイド養成を実施してきた。ガイドの養成は、次世代への継承を目的に中高生へも対象を拡げており、学生ガイドを含めた約70名の会員が年間4500人以上の観光ガイドを実施、世界遺産比叡山延暦寺を含む坂本地区の歴史文化遺産の情報発信を行っている。

以上のように多様なボランティアガイドが大津の歴史文化の魅力を伝え、情報発信を行っている。

エ 情報発信

「大津市総合計画2017」では、大津市の豊かな歴史・文化遺産のすばらしさを広く国内外へ発信し、その魅力を貴重な観光資源として世界にアピールしていくこと、市民の郷土への理解と愛着を深め、市民との協働・連携により、歴史を生かしたまちづくりを進めることを目的に、歴史に関する情報発信を進めている。そのための取り組みとして、歴史博物館機能の充実、総合学習等の推進・支援、歴史・文化の学習機会の充実を掲げている。



写3-34 大津市歴史博物館常設展示

歴史博物館機能の充実を情報発信の取り組みのひとつに掲げているように、大津市の歴史文化の情報発信は、大津市歴史博物館が中心となって担っている。歴史博物館では、「堅田と比良山麓の村々」「大津百町」など6つのコーナーからなるテーマ展示と大津市全体の歴史の流れを年代順にたどる歴史年表展示によって常設展示を構成し、豊かな特色を持った大津の歴史文化を紹介する。これに加えて、特定のテーマを取り上げて大津の歴史文化を掘り下げる企画展を年3回程度、大津の歴史文化遺産のさまざまな特徴をいろいろな角度から紹介するミニ企画展を年8回程度、開催している。また、展示図録など刊行物の発行もあわせて行っている。

歴史博物館のホームページでは、大津の歴史文化遺産に関する5つのデータベースを公開し、広く情報発信を行っている。そのうちのひとつ「大津の文化財」では、令和元年（2019）6月1日現在、大津市内に所在する世界遺産1件、指定等文化財671件の概要を掲載し、「大津の歴史事典」では、大津市の歴史や歴史文化遺産が検索しやすいよう、事典形式にまとめて公開している。

3-4 大津市の歴史文化の特徴

大津市の社会環境や自然環境、地域の歴史、歴史文化遺産の状況、歴史文化の保存・活用の取り組み経緯などから、大津市の歴史文化の特徴として、次の6点があげられる。

(1) 遺跡が語る歴史文化

大津市には琵琶湖とそれを取り巻く山々の豊かな環境に育まれた先人たちの文化が息づいている。惣山遺跡^{ちゆうろ}、中路遺跡など旧石器時代の遺跡をはじめ、石山貝塚、栗津湖底遺跡、滋賀里遺跡といった縄文時代の遺跡から、湖岸に居住した人々の暮らしや文化をうかがい知ることができる。弥生時代になると南滋賀遺跡などの集落が形成され、また、高峯遺跡といった高地性集落もつくられるようになる。

古墳時代前期～中期には、壺笠山古墳^{つぼかさやま}や茶臼山古墳^{ちゆうすやま}、皇子山古墳、和邇大塚山古墳など有力者の墳墓が築造された。後期になると曼陀羅山古墳群^{まんだらやま}など多くの群集墳が築かれる。特に坂本から錦織にかけては、古墳の構造やミニチュア炊飯具の副葬品などから渡来人との関係が注目されている。渡来人たちは、穴太遺跡に代表される大壁建物^{おおかべ}やオンドル状遺構を有した集落を形成していたと考えられる。

そして、激動の時代である天智天皇6年(667)に大津宮が造営され、崇福寺^{すうふくじ}や南滋賀町廃寺、穴太廃寺など大津宮に関連する寺院も建立された。さらに、奈良～平安時代の瀬田地域には近江国庁跡や惣山遺跡、青江遺跡、中路遺跡など国府関連遺跡が分布しており、一大官衙群^{かんが}を形成する。

このように、先史時代から古代にかけての遺跡は、大津市の成り立ちを語る重要な歴史文化をつくり出している。



写 3-35 曼陀羅山古墳(緑町)

(2) 信仰が生み出した歴史文化

大津市では、さまざまな信仰から豊かな歴史文化遺産が形づくられ、守り、育まれてきた。とくに、延暦寺や園城寺、石山寺、日吉社(現、日吉大社)をはじめとする寺社の信仰から数多くの歴史文化遺産が生み出された。それは国宝や重要文化財などの建造物や美術工芸品の多くが寺社の所蔵であることから窺うことができる。また、西国三十三所観音巡礼など、寺社は庶民信仰とも密接に関わっている。



写 3-36 園城寺金堂(園城寺提供)

寺社の信仰が生み出した歴史文化のひとつに、坂本の伝統的建造物群保存地区がある。本地区では、比叡山上で修行した僧侶の隠居所である里坊が道路に面して門を構え、周囲には穴太衆積みの石垣と塀、もしくは生垣をめぐらし、奥に堂や本堂等の建物が置かれる。そして広々とした空間と緑を演出する庭園など、町家の町並みでは味わえない奥行きがあり、地区内を流れる清涼な溪流や小水路などを含め、独自の歴史的空間を形成している。

さらに、大津市を代表する勇壮な神輿の祭礼である日吉大社の山王祭^{さんのうさい}や建部大社の船幸祭^{せんこうさい}をはじめ、栗原の八朔踊りや山中町のお弓行事、葛川明王院の太鼓まわしなど、信仰に基づく祭礼や行事が市内各地で行われている。

このように、さまざまな信仰によって形成された歴史文化は大津市の大きな特徴である。

(3) 琵琶湖と暮らしをめぐる歴史文化

人々は先史時代から琵琶湖岸に集落を営み、まちを形成して豊かな歴史文化を作り上げてきた。

坂本は古くより琵琶湖水運の要を担う中心地のひとつとして繁栄し、また延暦寺・日吉大社の門前町として陸上交通においても要衝とされた。このことから、坂本の地は重視され、16世紀に坂本城が築かれるも、湖南の要地である大津へ移転し、廃城となる。

大津もまた、平安時代より琵琶湖水運の拠点として繁栄し、16世紀に大津城が築かれると、城下町としていっそう栄えることになる。関が原合戦後、大津城は廃城となるが、港の荷揚げ場という立地を活かして大津百町を形成し、現在に至るまで商都として繁栄し続けている。それは天孫神社の祭礼である大津祭にも現れており、京都祇園祭に比肩する豪華な懸装品やからくり人形を特徴とする大津祭の曳山は、大津町人の繁栄を窺わせる。

膳所の町には大津城廃城後に水城が造成され、明治維新まで城下町として繁栄する。そして、東海道の要衝である瀬田橋の維持管理も担っており、これらを背景にして今の膳所の骨格が生まれたといえよう。さらに、堅田の町は鎌倉時代以降、土豪の侍や商人たちが琵琶湖の水運で大きな力を振り、江戸時代には漁業・水運・造船を中心に営みがなされ、文人墨客の集う地としても文化を醸成させていく。

このように大津市は琵琶湖の水運や生業、人々の営み、活動が独特の歴史文化を形づくっている。



写 3-37 堅田の浮御堂

(4) 道でつながる歴史文化

大津市は、東国に通じる東海道、北国につながる北国海道（西近江路）、若狭につながる若狭街道などによって、各地との交易・交流が盛んとなり、多様な道でつながる歴史文化遺産を有することが特徴である。

東海道は、7世紀中ごろにはすでに整備がなされていた古代からの道であり、奈良時代には勢多駅が、江戸時代には大津宿がおかれた。なかでも瀬田川にかかる唯一の橋である瀬田橋や、京都へつながる逢坂越は東海道筋の要衝であった。逢坂越は明治時代に入っても重要視され、鉄道敷設にともなって旧逢坂山トンネルが建設される。また、東海道筋ではいろいろな歴史文化遺産が生み出され、江戸時代には、土産物、名産品である大津絵や大津算盤の名が全国に広まっていた。

琵琶湖の西岸に沿って走る北国海道も古代からの道である。北国海道は京都へと向かう小関越や山中越、仰木越などに繋がっており、湖岸の港町から荷揚げされた物資がこれらの道を通って京都へと運ばれた。若狭と京都をつなぐ若狭街道は葛川参籠の道であり、多くの物資や文化が運搬され、近年は「鯖街道」とも呼ばれている。また、これらの道中に建てられた道標は、東海道や北国海道の古道を今に示し、大津や山中町、下阪本などには街道筋の町並みが残る。

京都をはじめ、東国・北国各所と街道でつながった大津市には、人や物資の往来の中で育まれた多様性と地域の個性を感じられる歴史文化を今に伝えている。



写 3-38 東海道筋の小関越道標
(横木一丁目)

(5) 自然とともにつくる歴史文化

大津市は北から比良、比叡などの山地や丘陵が続き、琵琶湖に囲まれた自然豊かな都市である。近代には、琵琶湖の雄大な風景と閑静な土地が注目され、旧琵琶湖ホテルの建設や旧伊庭家住宅などの別荘建築がなされた。

自然は人々の暮らしにも密接に関わってきた。江戸時代の早い段階で大津市北部地域では、木戸石（花崗岩）と呼ばれる庭石などの切り出しが行われ、京都へも運ばれていた。これらの石材を利用して、江戸時代、四ツ子川には大規模な石造堤防である百間堤^{ひゃっけんづつみ}が作られ、比良山麓では獣害対策としてシン垣が築かれる。また、里山には棚田がつくられ、暮らしと生業の関わりから山の神信仰も盛んに行われてきた。

自然は恩恵を与える一方で災害も引き起こす。度重なる洪水を防ぐために南郷洗堰、田上山の砂防ダムであるオランダ堰堤^{よろい}、鑑ダムという基盤施設が建築され、これらは産業の面でも暮らしの面でも大津市の発展に寄与した歴史文化遺産である。

このように、自然とともにつくられた歴史文化が大津市の大きな特徴と言えよう。



写 3-39 オランダ堰堤（上田上桐生町）

(6) 文学につづられる歴史文化

琵琶湖とその周辺の自然豊かな景観は、古代から人々の心に響く風景として、歌に詠まれてきた。和歌に詠み込まれた名所である歌枕には、「真野入江」「志賀山越」「唐崎」などがあり、『万葉集』や『古今和歌集』などにはこれらの歌枕を詠んだ歌が多く所収されている。また、大津市内には小野のたかむら萱神社はじめ、歌人たちにまつわる場所も多い。そして歌枕は15世紀に成立したと考えられる近江八景にも取り入れられ、いまなお名所として親しまれている。

歌枕や近江八景の名所では、江戸時代に俳聖・松尾芭蕉^{まつおぼしろう}が門人とともにすぐれた俳諧を残す。大津を第2の故郷と称した芭蕉は、義仲寺や堅田、国分のげんじゅうあん幻住庵などに滞在して俳諧を詠み、門人たちと交流を深めた。

一方、大津の地は物語の舞台としてもさまざまな書物のなかで描かれている。紫式部が『源氏物語』を着想したと伝わる石山寺や『平家物語』に描かれた世に名高い栗津の合戦と源義仲・今井兼平の物語、『太平記』につづられたにったよしさだ新田義貞の悲話などがあげられよう。そして、能「兼平」「三井寺」「関寺小町」、浄瑠璃「傾城反魂香」や歌舞伎「大津絵道成寺」なども大津が舞台となっている。

和歌・俳諧・物語という文学作品につづられる歴史文化もまた、大津市の特徴である。



写 3-40 石山寺本堂源氏の間
(石山寺提供)

3-5 歴史文化の保存・活用に関する課題

大津市では、これまでも多様な主体が歴史文化遺産を着実に保存するとともに、歴史文化遺産を活かしたさまざまな取り組みを展開してきた。

しかし、人口減少や少子高齢化、ライフスタイルの変化等の社会情勢や、歴史文化に期待される機能・役割の高まりなどの視点からみると、歴史文化の保存・活用に関する課題も生じている。それらの課題は、「歴史文化の保存に向けた課題」、「歴史文化の活用に向けた課題」、「保存・活用のための仕組みづくりに向けた課題」の3つの視点から、次のように整理できる。

○ 歴史文化の保存に向けた課題

- ・ 価値が十分に明らかになっていない歴史文化遺産やこれまで把握できていなかった歴史文化遺産の調査が必要
- ・ 指定等文化財の確実な保存並びに周辺環境との一体的な保存による本質的価値の継承が必要
- ・ 指定等を受けていない歴史文化遺産には、喪失の危機に瀕するものがあることを認識し、保存措置を講じることが必要
- ・ 異常気象が多発する中で、歴史文化遺産の防災体制の強化が必要
- ・ 歴史文化遺産の保存を前提とした活用を推進するため、防犯面での対策が必要

○ 歴史文化の活用に向けた課題

- ・ 大津市における歴史文化遺産の豊かさ、多様性に関する情報発信力の拡充が必要
- ・ 歴史文化遺産に触れる場の充実や良好な景観の形成が必要
- ・ 大津市の歴史文化の魅力を分かりやすく整理することを通じて、各主体が連携した多様な取り組みを拡充することが必要
- ・ 歴史文化が持つ多面的な機能をまちづくりに活かすことが必要
- ・ これまでの文化財調査における資料の公開、データベースの構築が必要

○ 保存・活用のための仕組みづくりに向けた課題

- ・ 歴史文化遺産の把握や歴史文化の継続的な調査・研究のための体制の構築が必要
- ・ 歴史文化の保存・活用を担う人材の育成が必要
- ・ 歴史文化の保存・活用を目的とした市民活動の継続性の担保や行政・専門家などによる支援体制の構築が必要
- ・ 歴史文化の保存・活用を効果的に推進するための、主体間の連携体制の構築が必要
- ・ 構想に基づく取り組みを計画的に、また着実に推進するために計画や体制の構築が必要